

秘

昭和十七年三月三十一日現在

中支那振興會社並關係會社事業概況

中支那振興株式會社

E-0612

0259

頁	行	正誤表
九	三行	二・五
一四	四行	淮南炭礦
一五	一行	赤字
一六	一行	五月二十九日
二八	一行	旅客
二九	一行	左ノ如シ
三九	一行	貨客收入
四七	二行	(二)
六五	三行	水管延長
八二	四行	出資ノミヨ
一〇二	九行	二百萬圓
一〇四	一行	赤字
一〇四	一行	已ムヲ得ザル
一〇四	一行	已ムヲ得ザル

昭和十七年三月三十一日現在

中支那振興會社並關係會社事業概況

中支那振興株式會社

凡例

一、本概況ハ特ニ但書ヲ加ヘタルモノヲ除クノ外スベテ昭和十七年三月三十一日現在ノ事實ニ基キテ作製シタリ

一、各會社トモ

一、設立經過二、會社ノ法人格及本店ノ所在地三、事業目的
四、政府ノ監督五、會社ノ特典六、資本金七、事業概況及今後ノ方針八、役員

ノ順序ニテ記述シタリ

一、本概況記載ノ事項中ニハ機密ニ屬スベキモノ多シ。取扱上慎重ナル注意アリタシ

一、上海恒產股份有限公司……………七三

鑛業

一、華中鑛業股份有限公司……………八二
一、淮南煤礦股份有限公司……………九一

農水産業

一、華中蠶絲股份有限公司……………九八
一、華中水產股份有限公司……………一一
一、華中蠶業股份有限公司……………一二

組合

一、振興住宅組合……………一二九
一、法幣需給調節基金……………一三三

中支那振興株式會社

一、設立經過

中支那經濟ノ復興開發ハ戰禍ノ著シカリシト及此ノ地方ノ支那經濟ニ於ケル重要性並ニ外國權益ノ錯綜セル
特殊性ニ鑑ミ、戰局ノ進展途上ニ在リテ機ヲ逸セズ其ノ骨組ヲ造ルヲ適切有効トシ、先ツ上海ヲ中心トスル通
信、交通、鑛業、電氣、水道、水産其ノ他公共事業及上海都市建設等ノ諸事業ヨリ着手シ、以テ諸産業ノ振
興、貿易ノ伸長ニ資スル計畫ヲ樹立シ、昭和十二年末以來之方實施ヲ急ギ來レリ。而シテ此等ノ事業ハ概ネ支
那側ヨリ既存設備ヲ現物出資セシメ之ニ日本側ノ資本及技術ヲ注入シ、夫々日支合辦ノ會社經營ニ委ヌルコト
トセリ。

中支那振興株式會社ハ此等ノ諸事業ニ對スル投資應募並ニ全般的調整ニ當ルベキ重要使命ヲ帶ビ昭和十三年四
月三十日法律第八十二號ヲ以テ公布セラレタル中支那振興株式會社法ニヨリ、同年十一月七日資本金一億圓第
一回拂込金三千百餘萬圓ヲ以テ設立セラレタリ。

二、會社ノ法人格及本店ノ所在地

(一) 會社ノ法人格 日本特殊法人タル株式會社
(二) 本店ノ所在地 上海(上海乍浦路二〇七號)

三、事業目的

本會社ハ中支那振興株式會社法（昭和十三年四月三十日法律第八十二號、改正昭和十四年三月二十九日法律第四十六號、昭和十四年四月四日法律第六十八號、昭和十五年三月二十七日法律第十號、昭和十七年三月六日法律第七十七號）ノ規定スルトコロニ從ヒ

(一) 交通運輸ニ關スル事業

(二) 通信ニ關スル事業

(三) 電氣、瓦斯及水道ニ關スル事業

(四) 鑛業ニ關スル事業

(五) 水産ニ關スル事業

(六) 前各號ノ外中支那ニ於ケル公共ノ利益又ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル事業

ニ對シ投資又ハ融資ヲナシ（同法第十二條）、コレヨリ中支那ニ於ケル經濟ノ復興及ビ開發ヲ助成スルヲ以テ目的トナス（同法第一條）。

四、政府ノ監督

本會社ニ對スル日本政府ノ監督ハ中支那振興株式會社法及内閣總理大臣ノ命令書（昭和十六年九月二十日内閣閣令第三四四號）ニ規定セラルトコロニシテ、ソノ重ナルモノ左ノ如シ。

(一) 政府ノ認可事項

1 職制、役員ノ報酬手當其ノ他社員ノ給與ニ關スル規程、營業其ノ他ニ關スル重要ナル規程ノ制定又ハ改

廢（同命令書第一條第二項第一號）

2 増資（同法第二條、同命令書第二條第一項第一號）

3 定款ノ變更、合併又ハ解散ノ決議（同法第二十條、同命令書第二條第一項第二號）

4 理事又ハ監事ノ選任又ハ解任（同法第十條、同命令書第二條第一項第三號）

5 役員ノ報酬、手當若ハ退職慰勞金ノ額ノ決定又ハ變更（同命令書第二條第一項第四號）

6 中支振興債券ノ發行又ハ借入金（同法第十四條、第十九條、同命令書第二條第一項第五號）

7 株金ノ拂込（同命令書第二條第一項第六號）

8 自營事業（同法第十二條、同命令書第二條第一項第七號）

9 毎營業年度ノ投資融資及自營事業計畫、事業費豫算、營業收支豫算並ニ資金計畫ヲ定メ若ハ之ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ事業費豫算ノ豫備費ヲ以テ豫算外ノ費途ニ充テントスルトキ（同法第二十二條、同命令書第二條第二項第八號）

10 重要ナル投資又ハ融資（同命令書第二條第一項第九號）

11 決算及利益金ノ處分（同命令書第二條第一項第十號）

12 重要ナル財産ノ處分又ハ債務保證（同命令書第二條第一項第十一號）

13 重大ナル義務負擔又ハ重要ナル契約ノ締結（同命令書第二條第一項第十二號）

14 投資、融資若ハ助成ヲ爲シ又ハ爲サントスル會社若ハ組合ニ對シ重要事項ニ付承認ヲ與ヘントスルトキ

三

(同命令書第三條)
15 總裁、副總裁及業務ヲ分掌スル理事ニシテ他ノ職務又ハ商業ニ從事セントスルトキ (同法第十一條、同命令書第四條)

16 其ノ他中支那ニ於ケル公共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲又ハ業務運営上特ニ重要ナル事項 (同命令書第五條)

(一) 政府ハ中支那振興株式會社ノ業務ニ關シ監督上、國防上又ハ中支那ニ於ケル公共ノ利益若ハ産業ノ振興ノ爲必要ナル命令ヲナスコトヲ得 (同法第二十三條)

(二) 政府ハ中支那振興株式會社監理官ヲ置キ業務ヲ監視セシム。監理官ハ何時ニテモ必要ト認ムルトキハ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査シ業務ニ關スル諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシメ又株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ列席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得 (同法第二十四條)

(三) 政府ハ中支那振興株式會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ヲ法令、法令ニ基キテ爲ス處分若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得 (同法第二十五條)

五、會社ノ特典

(一) 政府ノ所有スル株式ノ數ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ數ヲ超ユル場合ニ於テハ政府ハ其ノ超ユル數ノ株式ニ付議決權ヲ行使スルコトヲ得ズ (中支那振興株式會社法第四條)

(二) 中支那振興株式會社ニ非ザルモノハ中支那振興株式會社又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ以テ其ノ商號ト爲スコトヲ得ズ (同法第六條)

(三) 拂込資本金ノ五倍ヲ限リ中支那振興債券ヲ發行スルコトヲ得。舊債償換ノ爲一時前項ノ制限ニ依ラズ中支那振興債券ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行後一ヶ月內ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル舊中支那振興債券ヲ償還スベシ。中支那振興債券ヲ發行スル場合ニ於テハ商法第三百四十三條ニ定ムル決議ニ依ルコトヲ要セズ (同法第十三條)

(四) 政府ハ中支那振興債券ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得 (同法第十五條)

(五) 每營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ (同法第二十六條)

(六) 每營業年度ニ於ケル投資、融資及自營業業ニ因ル收入ノ投資、融資及自營業業資金ノ總額ニ對スル割合ガ年百分ノ六ニ達セザルトキハ政府ハ初營業年度及爾後五年間配當シ得ベキ利益金額ヲ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス (同法第二十七條)

(七) 政府ニ於テ會社ノ業務ニ關シ國防上必要ナル命令ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス (同法第二十三條第二項)

六、資本金
(一) 資本金總額 一億圓

七、事業概況及今後ノ方針

(一) 事業概況

本會社ハ昭和十三年十一月七日資本金一億圓ヲ以テ創立セラレ業務開始以來滿三ケ年ヲ経過シタリ。ソノ
 拂込資本金額ハ設立當初ノ三千三百八十八萬二千三百四十四圓ヨリ四千五百四十四萬七千六百八十圓ニ増加シ關
 係會社合計十三社關係組合ニテ數フルニ至レリ。而シテ設立以來既ニ滿三ケ年ヲ過ギタルモノ九社、滿二
 ケ年ヲ経過セルモノ四社、二組合ナリ。

關係會社及關係組合ハソノ資本總額(十三社、二組合合計)二億二千四百二十二萬圓、拂込總額一億七
 千七百七十九萬七千圓ニシテ、本會社ノ之ニ對スル出資引受額ハ八千四百七十六萬二千圓(資本總額ノ三
 七・八%)同ジク拂込額ハ六千一百七十四萬四千四百圓(拂込總額ノ三四・一%)ニ達シタリ。關係會社十
 三社合計資本總額ニ對スル日本側出資ハソノ六一・八%ニ當リ一億三千六百五十五萬七千圓、支那側出資
 ハ三八・二%ニシテ八千四百四十四萬三千圓ナリ。而シテ日本側出資額ノ六一・四%ハ本會社ノ出資ニカ
 ハリ、支那側出資ノ六二・二%ハ支那政府ノ出資スルトコロナリ。
 コレヲ表示スレバ次ノ如シ。

株主	出資ノ種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込	%
日本政府	現物	一五、二〇〇株	七、五八〇、〇〇〇圓	七・六	七、五八〇、〇〇〇圓	全額	一六・九
	現金及現物	八、〇〇〇株	四、五八〇、〇〇〇圓	四・四	二、四七五、〇〇〇圓	元一株ニ付四圓四錢	五・三
	小計	一、三〇〇、〇〇〇株	五、〇〇〇、〇〇〇圓	五・〇	三、一五五、〇〇〇圓		二一・二
一般民間	現金	一、〇〇〇株	五、〇〇〇、〇〇〇圓	五・〇	三、一五五、〇〇〇圓	四分ノ一	二一・二
合計		二、三〇〇、〇〇〇株	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓	一〇・〇	六、三一〇、〇〇〇圓		六三・一

(四) 資本ノ増減						
日本政府	引受株數	第一回拂込	第二回拂込	第三回拂込	計	
	(種類)	(昭和三年九月)	(昭和四年九月)	(昭和五年三月)	(昭和七年三月現在)	
	(現金及現物)	(七、五八〇、〇〇〇圓)	(五、八〇〇、〇〇〇圓)	(七、六八〇、〇〇〇圓)	(全額拂込)	
小計	一、三〇〇、〇〇〇株	一八、八三三、四四圓	五、八三三、六四圓	七、八三三、七四圓	三、一五五、六八圓	

一般	計
現金	一、三〇〇、〇〇〇圓
(現金及現物)	(四分ノ一拂込)
三、一五五、六八圓	
三、一五五、六八圓	
五、八三三、六四圓	
七、八三三、七四圓	
三、一五五、六八圓	
三、一五五、六八圓	
(四分ノ一拂込)	
三、一五五、六八圓	

關係會社公稱資本構成

會社名	公稱資本	支那側	%	日本側	%	日本側ノ内 本會社拂込 資本%
華中鑛業	二〇、〇〇〇	一〇、五四五・七	二一・五	九、四五五・四七・三	四、五〇〇・二二・五	
華中水電	四三、〇〇〇	二二、五二〇・五〇・一	二一、八	一、八八一・九四・一	六、〇〇〇・三〇・〇	
上海內河	二、〇〇〇	一一八・五・九	一、〇	〇・〇〇〇・六六・七	六、〇〇〇・四〇・〇	
電氣通信	一五、〇〇〇	五、〇〇〇・三三・三	一、〇	〇・〇〇〇・五〇・〇	五、〇〇〇・二五・〇	
上海恒産	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇・五〇・〇	二、〇	九、八五九・九・五	六、〇〇〇・三三・四	
公共汽車	三、〇〇〇	一五・〇・五	二、〇	二、九八五・九・五	一、六〇三・五三・四	
華中水産	五、〇〇〇	四八〇・九・六	二、〇	四、五二〇・九〇・四	二、七七五・五五・四	
大上海瓦斯	三、〇〇〇	二〇〇・六・七	二、〇	二、八〇〇・九三・三	一、八〇〇・六〇・〇	
華中蠶絲	一〇、〇〇〇	二、八五二・八・五	四、〇	七、一四八・七一・五	二、〇〇〇・二〇・〇	
華中鐵道	五〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇・〇・〇	九、〇	九、〇〇〇・八〇・〇	三、一五〇・六三・〇	
淮南煤礦	一五、〇〇〇	五、八五〇・三九・〇	二、〇	九、一五〇・六一・〇	四、一五〇・二七・六	
華中鹽業	五、〇〇〇	二、五〇〇・五〇・〇	一、四	二、五〇〇・五〇・〇	二、〇〇〇・四〇・〇	
中華輪船	三〇、〇〇〇	一五、三六二・五一・二	一、四	六、三八四・八・八	五、七九四・一九・三	
計	三二一、〇〇〇	八四、四四三・三八・二	二、三六	五五七・六一・八	八三、八二七・三七・九	

關係會社拂込資本構成

會社名	拂込總額	支那側	%	日本側	%	日本側ノ内 本會社拂込 總額%
華中鑛業	二〇、〇〇〇	一〇、五四五・七	二一・五	九、四五五・四七・三	四、五〇〇・二二・五	
華中水電	二九、三九〇	二二、五二〇・五〇・一	二一、八	一、八八一・九四・一	五、九〇三・三〇・〇	
上海內河	二、〇〇〇	一一八・五・九	一、〇	〇・〇〇〇・六六・七	六、〇〇〇・三〇・〇	
電氣通信	一五、〇〇〇	五、〇〇〇・三三・三	一、〇	〇・〇〇〇・五〇・〇	六、〇〇〇・四〇・〇	
上海恒産	一七、五〇〇	一〇、〇〇〇・五〇・〇	二、〇	七、五〇〇・四二・九	三、七五〇・二二・四	
公共汽車	二、二六三	一三・〇・六	二、〇	二、二五〇・九九・四	一、二二三・五三・六	
華中水産	三、一六五	三八〇・一一・〇	二、〇	二、七八八・八・〇	一、三八五・四三・八	
大上海瓦斯	一、六〇〇	二〇〇・一一・五	二、〇	一、四〇〇・八七・五	九〇〇・五六・二	
華中蠶絲	六、五〇〇	二、八四八・四三・八	三、〇	六、五二五・六・一	一、〇〇〇・一五・四	
華中鐵道	四〇、〇六五	七、五〇〇・一八・七	三、〇	三、五六五・八一・三	二、六・一・九〇・六五・三	
淮南煤礦	一五、〇〇〇	五、八五〇・三九・〇	二、〇	九、一五〇・六一・〇	四、一五〇・二七・六	
華中鹽業	五、〇〇〇	二、五〇〇・五〇・〇	一、〇	二、五〇〇・五〇・〇	二、〇〇〇・四〇・〇	
中華輪船	一七、〇九四	九、一三六・五三・四	七、〇	九、五八四・六・六	三、〇六三・一七・九	
計	一七四、五七七	七五、六一〇・四三・三	九、八	九、九六七・五六・七	六〇、六五四・三四・八	

10

（単位千圓）

關係組合公稱資本並拂込資本構成

組合名	公稱資本	拂込資本	本會社出資	對公稱資本%
振興住宅	三、〇〇〇	三、〇〇〇	九五〇	三一・七
法幣基金	二、二〇〇	二、二〇〇	一〇〇	四五・四
計	三、二二〇	三、二二〇	一、〇五〇	三一・六

而シテ本會社ノ關係會社及組合ニ對スル投資ハ昭和十五年度ニ於テ二百九十萬圓、昭和十六年度ニ於テ七百二十七萬八千二百二十六圓八十八錢ヲ夫々増加シ、昭和十六年度末現在投資額ハ合計六千一百七十萬四千四百圓ニ達シタリ。次ニ關係會社及組合ニ對スル融資ハ昭和十五年度ニ於テ一千三百五十二萬四千圓、昭和十六年度ニ於テ四千八百十五萬六千圓ヲ夫々増加シ、昭和十六年度末現在融資額ハ合計一億八百八十二萬圓ニ達シタリ。之ヲ表示スルニ左ノ如シ。

昭和十五年度及昭和十六年度投資狀況

（単位千圓）

投資先	前年度繰越高	昭和十五年度増加高	昭和十五年度末現在高	昭和十六年度増加高	昭和十六年度末現在高
華中鐵業	三、四〇四	一、一二五	四、五二九	△二九	四、五〇〇
華中水電	五、九二五	〇	五、九二五	△二三	五、九〇二
上海內河	四、五〇〇	〇	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇
電氣通信	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇

上海恒産	公共汽車	華中水産	大上海瓦斯	華中鐵道	華中鐵礦	淮南鐵礦	華中鹽業	中華輪船	振興住宅	法幣基金	計
五〇〇	一、一六	三八五	四五〇	〇〇〇	九四〇	二、〇七五	五〇〇	七三〇	九五〇	一〇〇	五一、五二六
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二、九〇〇
二、五〇〇	一、一六	三八五	四五〇	〇〇〇	二、〇七五	五〇〇	七三〇	九五〇	一〇〇	〇	五四、四二六
一、二五〇	九七	四五〇	〇	〇	六二五	一、〇七五	五〇〇	三三三	〇	△三三二	七、三三二
三、七五〇	二、一三	三八五	九〇〇	一、〇〇〇	六、〇〇〇	四、一五〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	一、〇〇〇	〇	六一、七〇四

昭和十五年度及昭和十六年度融資狀況

前年度繰越高

昭和十五年度増加高

同 年度末現在高

昭和十六年度増加高

同 年度末現在高

四七、一四〇 千圓

一三、五二四 千圓

六〇、六六四 千圓

四八、一五六 千圓

〇八、八二〇 千圓

(註) 本會社並關係会社ハ綜合的計畫ニヨル合理的經營ヲ一層推進センガ爲從來各社區々タリシ營業年度ヲ統一シ、昭和十六年四月一日ヨリ凡テ日本會社年度ニ一致セシメ現地ノ事業計畫及資金計畫ヲシテ直チニ中央ノ資金並物動計畫ト照應セシムルコト、ナリタル結果、各社共營業年度變更ニ關スル定款上ノ手續ヲ終了シ各社昭和十五營業年度終了後昭和十六年三月末日迄ヲ以テ昭和十五年度ト爲シ經過的決算ヲ完了シタリ。而シテ本會社ニ在リテハ昭和十六年一月一日ヨリ同年三月末日迄ヲ以テ該年度ト爲ス。

本會社ハ之ガ資金調達ノタメ昭和十五年四月二十日二千萬圓、同年十一月二十五日二千萬圓、昭和十六年五月八日三千萬圓、同年十一月十五日三千萬圓ノ社債(中支振興債券)ヲ發行シソノ本年度末殘高ハ一億圓ニ達シタル外社債前借金及普通借入金トシテ昭和十六年度末二千七百七十五萬圓ヲ存ス。

本會社ハ中支那振興株式會社法ノ規定スルトコロニ從ヒ特殊ノ事情アル場合日本政府ノ許可ヲ受ケ事業ヲ自ラ經營シ得ベク、昭和十四年度ニ於テハ緊急需要ニ應ジ臨時營業部ヲ開設シ、海州鹽ノ搬出及販賣事業ヲ暫時自營シ華中鹽業公司設立ノ基礎ヲ成セリ。尙昭和十四年四月中支物動委員會ノ成立以來本會社ハ各關係會社及中支那邦人關係事業ノ全般ニ亘ル物資ノ需給調整ニ關スル實際事務ノ取扱ヲ擔當スルコトナリ當局ノ物資動員計畫遂行ニ協力シツアリ。マタ社業ニ必要ナル諸調査ヲ實施スルト共ニ浙東地區資源調査、蘇州地區清鄉地域調査ニ參加シタリ。大東亞戰爭勃發後ハ敵產公共事業處理ニ關シ調査企畫シタル外關係各方面ト協力シ敵產處理並中支經濟再編成方策等ニ關シ所要ノ調査企畫ヲ擔當シタリ。

中支那經濟ノ復興開發ニ當ルベキ本會社ノ關係事業ハ先ヅ戰禍ヨリノ應急的復興工作ヨリ着手シ復舊ノ完成ニ進ミ之ヲ擴充センコトヲ期シ、昭和十四年一月ヨリ三年ヲ以テ之ガ所要期トナシ爾來銳意資金物資ノ調達難、治安ノ影響等事業遂行上ノ困難ヲ克服シツ全般的ニ比較的順調ナル進捗過程ヲ辿リタルノミナラズ、昭和十六年度ニ於テハ資產凍結及大東亞戰爭ノ勃發等アリタルニ拘ラズ投融資資金並資材ノ調達モ著シク増進シタリ。

即チ本會社ノ關係事業ニ對スル投融資累年実績ヲ見ルニ次表ノ如シ。

投資融資累年実績

(單位千圓)

年 度	年 度 中 増 加 額			年 度 末 殘 高		
	投 資	融 資	合 計	投 資	融 資	合 計
昭和十三年度	一一、七五〇	三七	一一、七八七	一一、七五〇	三七	一一、七八七
昭和十四年度	一一、二八四	八、六四四	一九、九二八	三四、〇三四	八、六八一	四二、七二五
昭和十五年度	一七、四九二	三八、四五九	五五、九五二	五一、五二六	四七、一四〇	九八、六六六
昭和十六年度	二、九〇〇	一三、五二四	一六、四二四	五四、四二六	六〇、六六四	一一五、〇九〇
昭和十六年度	七、二七八	四八、一五六	五五、四三四	六一、七〇四	一〇八、八二〇	一七〇、五二四

斯クシテ關係事業ニ於ケル復舊整備ノ進捗並ニ發展ニ伴ヒ業績モ亦逐次向上ヲ辿リツ、アルコト左表ニ依リテ窺ヒ得ベシ。

累年利益配當率

會社名	十三年度	十四年度	十五年度	十五乙年度	十六年度	十六年度
中支振興	無配	民開株ノ後配ニ對シテ	五分全上	六分全上	六分全上	六分全上
華中振興	無配	民開株ノ後配ニ對シテ	五分全上	六分全上	六分全上	六分全上
華中水電	五分(但シ振興會社持株ニ對シテハ行ハズ)	六分	六分	六分	六分	六分
上海内河	五分(但シ振興會社持株ニ對シテハ行ハズ)	六分	六分	六分	六分	六分
電氣通信	六分(但シ維新政府振興會社持株ニ對シテハ行ハズ)	六分	六分	六分	六分	六分
公共汽車	六分	六分	六分	六分	六分	六分
華中水產	六分	六分	六分	六分	六分	六分
大上海瓦	八分	六分	六分	六分	六分	六分
華中鐵道	八分	六分	六分	六分	六分	六分
淮南炭礦	八分	六分	六分	六分	六分	六分
華中鹽業	八分	六分	六分	六分	六分	六分
中華輪船	八分	六分	六分	六分	六分	六分
振興住宅	八分	六分	六分	六分	六分	六分
法幣基金	八分	六分	六分	六分	六分	六分

(註) 法幣基金ハ毎年自一月一日起至十二月三十一日ヲ以テ一營業年度トス。

大東亞戰爭ノ勃發ハ上海ニ於ケル租界ノ敵性ヲ拂拭清算セシメ、上海ヲ中心トシテ大支經濟ノ再編成ハ今ヤ

著々進展シツツアリ。コノ時ニ當リ恰モ復舊三ヶ年計畫ヲ滿了シ將來飛躍ノ基礎略々成レル關係諸事業ハ再編成擔當者トシテ極メテ重大ナル使命ヲ有ス。既ニ敵產管理企業ニシテ本年度末迄ニ委託セラレタルモノ次ノ如シ。

業種	國籍	會社數
電氣	米	一
水道	英	一
瓦斯	米	一
電話	英	一
電機	英	一
電力	英	一
冷凍	英	一
分析	英	一
計	米	一

(二) 今後ノ方針

本會社ハ豫テ東亞共榮圈確立ノ使命ヲ中支ニ於テ分擔、關係事業ノ分野ニ於テ之ガ達成ヲ期シツツアリタル所大東亞戰爭ノ勃發ニヨリソノ責務愈々重キヲ加ヘタリ。即チ從來上海共同租界ニ於テ本會社關係諸會社ト對立競爭關係ニアリタル公共事業其他ノ敵性諸事業モ軍管理企業トシテ概ネ委託セラレタルコト前述ノ如シ。本會社ハ今後東亞共榮圈確立上特ニ掌握指導ヲ必要トスル諸事業ニ關シテモ更ニ積極的ナル構想ノ下ニ之ヲ推進センコトヲ期ス。

八、役員

(昭和十七年五月末現在)

總裁	兒玉謙次
副總裁	平澤要
理事	園田三朗
同	油谷恭一
同	伴野清 (昭和十七年四月二十日就任)
監事	南條金雄

(副島綱雄理事ハ昭和十六年十一月二十七日死亡解任)
(三好重道監事ハ昭和十七年五月二十九日死亡解任)

上海内河輪船股份有限公司

一、設立經過

蘇州河及黃浦江上流其ノ他大小ノクリークヲ利用スル内河汽船運輸ハ事變後一時休航狀態ニ陥リタルモ、總テ多數ノ支那船邦人ニ依リ備船セラレ、外國船ノ航行モ加ハリ、雖然タル運航狀態ヲ呈スルニ至レリ。依テ昭和十三年三月中旬之ガ統制ヲ計ル爲、暫定的ニ日清汽船會社ヲ主體トスル江浙輪船公司ヲ設立シ、其ノ專營事業ニ移シ、該組合所屬以外ノ一切ノ汽船汽艇ノ航行ヲ禁止スルト共ニ、一面有力ナル統制會社ノ設立ヲ企畫シ其ノ準備ニ着手セリ。

之ガ設立ニ方リテハ現物出資ノ評價決定ニ少カラザル困難ヲ伴ヒタルモ、漸ク昭和十三年七月二十八日上海内河輪船股份有限公司ノ創立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

(一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ普通法人タル株式會社
(二) 本店ノ所在地 上海北蘇州路四三四號

三、事業目的

(一) 中支那主要内河航路ニ於ケル旅客及貨物輸送
(二) 船舶ノ賃貸借

(三) 倉庫及碼頭ノ經營並ニ右附帶事業
 四、政府ノ監督
 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
 (イ) 定款中重要ナル事項ノ變更
 (ロ) 社長、副社長ノ選任及解任
 (ハ) 合併及解散ノ決議

五、公司ノ特典

(一) 政府ハ本公司ヲシテ、中支那ノ主要ナル内河航路ニ於ケル小蒸氣船及發動機船並ニ之ガ曳船ニ依ル運輸事業ヲ統制經營セシメ本公司以外ニ同種事業ノ新設ヲ認メズ、且既存ノ同種事業ハ合併買収其ノ他ノ方法ニ依リ本公司ノ統制下ニ入ラシム
 (二) 本公司ハ政府ノ許可ヲ受ケ、他人ノ土地ニ立入り、水路及工作物ノ施設ニ關スル調査若ハ測量ヲ爲シ、又ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

六、資本金

- 1 資本金總額 二、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2 拂込額 二、〇〇〇、〇〇〇圓
- 3 株式數 四〇、〇〇〇株

4 一株ノ額面 五〇圓
 5 出資狀況

株主	種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込%
日本側	現金	三五、九六七株	一、七九八、三五〇圓	九四・五	一、七九八、三五〇圓	全額
	現物	一、八五一	九二、五五〇圓		九二、五五〇圓	全額
支那側	現金	一、〇七〇	五三、五〇〇圓	五・五	五三、五〇〇圓	全額
	現物	一、一二三	五五、六〇〇圓		五五、六〇〇圓	全額
合計	現金	三七、〇三七	一、八五一、八五〇圓	一〇〇・〇	一、八五一、八五〇圓	全額
	現物	二、九六三	一四八、一五〇圓		一四八、一五〇圓	全額

6 主ナル出資者

日本側	株主	種類	株數	出資額	拂込額
日本側	中支那振興株式會社	現金	一一、〇〇〇株	六〇〇、〇〇〇圓	六〇〇、〇〇〇圓
	東亞海運株式會社	同	一三、〇〇〇	六五〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇
同	上海運輸株式會社	現物	四二九	二一、四五〇圓	二一、四五〇圓
	同	現金	一、八〇〇	九〇、〇〇〇圓	九〇、〇〇〇圓

七、事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

本公司ノ運航船ハ昭和十五年度末ニ於テ曳船ハ社船一〇五隻、軍貨下船三隻、儲船六八隻、連絡用汽艇九隻合計二〇四隻ニシテ、被曳船用貨客船ハ社有一九四隻、儲船約二七〇隻、支店出張所ニ於ケル臨時儲船約二〇〇隻ナリシガ、ソノ後逐次整備セラレ、昭和十六年度末ニ於テハ、曳船ハ社船一六三隻、軍貨下船二隻、儲船九三隻ニシテ合計二八〇隻、貨客船ハ社有三〇七隻、軍貨下一〇隻、儲船八〇〇隻合計

一、一一七隻ニ達シ、尙直接荷主ノ船ヲ利用スルコトモ尠カラズ。

最近ニ於ケル航路ハ蘇州河線、黃浦江線、湖州線、杭州中心線、江北大運河線、南通・泰縣・東台・興化各中心線、鎮江中心線、南京中心線、蕪湖中心線、安慶中心線、淮河線ニシテ大小約九十餘線ヲ數ヘ延軒數ハ六千軒ニ達セリ、尙安慶中心線ハ昭和十六年十二月ヨリ中華輪船公司ニ移讓セリ。

昭和十六年度上期ニ於ケル上海ヲ中心トスル取扱貨物ハ法幣ノ下落、物資移動統制ノ強化、英米ノ資金凍結措置等ノ影響ニ因リ、豫想外ニ減少ヲ來シ、殊ニ蘇州河線ニアリテハ清郷工作ノ實施ニ因リ上期後半ハ半減セリ。然レ共上期ヲ通算シテ前期ニ比較スルニ増加ノ趨勢ヲ示ス。局地相互間取扱貨物ニツキテハ依然トシテ増加ノ傾向ヲ見ルガ、コレ物資移動統制ノ強化ニ隨伴スル現象ナリト云ヒ得ベシ。

昭和十六年度下期ニ於ケル貨物移動ノ狀況ハ、下期ノ大半ガ冬季ニシテ各クリークノ減水、就中江北一帯ノ水路凍結ニヨリ不調ヲ辿リ、加フルニ期央大戰勃發シ法幣ノ続落、物資移動統制ノ強化ト相俟テ變調ヲ來シタリ。然レドモ江南地區ハ清郷工作ニ依リ治安確立ニ伴ヒ農産物ノ出廻リ多ク、船客ノ往來亦見ルベキモノアリシタメ業績ハ總體的ニ前期ニ比シ向上スルヲ得タリ。

茲ニ昭和十五年度及昭和十六年度上下期ノ貨客取扱量及運賃收入ヲ昭和十四年度及十五年度ニ比較スルニ左ノ如シ。

支那側					日本側	
顧	王	潘	周	李	相	昭
鏡	叔	三	友	子	内	和
人	賢	省	常	翠	重	海
同	同	現	現	現	同	同
		物	金	金		物
一四〇	二四一	三〇九	五〇〇	一六二	一、〇〇〇	三六五
七、〇〇〇	一一、〇五〇	一五、四五〇	二五、〇〇〇	八、一〇〇	一〇〇、〇〇〇	一八、二五〇
七、〇〇〇	一一、〇五〇	一五、四五〇	二五、〇〇〇	八、一〇〇	一〇〇、〇〇〇	一八、二五〇

二〇

年 度	貨 物		旅 客	
	数 量	収 入	人 員	収 入
昭和十四年度	昭 和 十四年度 昭 和 十五年度 昭 和 十五乙年度 昭 和 十六年度上期 昭 和 十六年度下期	昭 和 十四年度 昭 和 十五年度 昭 和 十五乙年度 昭 和 十六年度上期 昭 和 十六年度下期	昭 和 十四年度 昭 和 十五年度 昭 和 十五乙年度 昭 和 十六年度上期 昭 和 十六年度下期	昭 和 十四年度 昭 和 十五年度 昭 和 十五乙年度 昭 和 十六年度上期 昭 和 十六年度下期

倉庫ニ就テハ、上海ニ於テ蘇州河及黃浦江沿岸ノ水陸交通至便ナル箇所ニ四ヶ所延坪數五、八四二坪ヲ經營シ來リタル外昭和十六年度下期ニ於テハ無錫及南京ニ各一ヶ所各二百坪ノ附屬倉庫ヲ新設經營シ、荷主ノ利用期毎ニ増加シツ、アリ。之ヲ表示スルニ左ノ如シ。

年 度	倉 庫	
	収 入	入
昭和十五乙年度	一、二五二、〇〇一・四二圓	
昭和十六年度上期	二、七九四、五八・八三	
昭和十六年度下期	三、六二四、五八・二四	

尚工場ニ就テハ、上海工場ニ於テハ專ラ社船ノ新造修理ヲ行ヒ、蘇州工場ニ於テハ社船ノ新造修理ノ外特

殊關係先ノ注文ニ應ジアルモ、資材不足物價昂騰ノ時期ニ拘ラズ多忙ヲ極メツ、アリ。

（二）今後ノ方針

當公司ノ開設スベキ航路ハ大略開設ヲ見船舶ノ増強モ亦一段落ヲ遂ゲタリ、將來ハ碼頭施設特ニ倉庫ノ整備ヲ第一ノ目標トス。又昭和十七年度上期ニ於テハ昭和十七年三月十六日臨時株主總會ニ於テ承認ヲ得タル四百萬圓増資ヲ實行シテ資本金合計六百萬圓トナシ、業務各般ノ整備、經營基礎ノ堅實兩々相俟ツテ以テ中支内河航業ノ統制ニヨリ日支商權確立ニ寄與スベキ重大使命ヲ定ウセントス。

八、役員

董事長	宋 定
副董事長	宋 定
常務董事	杉本久太郎
董 事	周 友 常
同	山中喜一
同	山本徳一
監 事	阿部 勇
同	王 叔 賢

中華輪船股份有限公司

二四

一、設立經過

支那經濟ノ動脈トモ稱スベキ揚子江ノ航運並ニ沿岸航運ノ實權ハ久シク第三國ノ壟斷スルトコナリシガ、言フ迄モナク一國航運業ノ盛衰ハ國力ノ消長ト相表裏スベキ關係ニアリ、支那航運業ノ萎靡退嬰ハ獨リ支那側ノミノ不幸ニ止ラズ、コレト相提携シテ興亞ノ大業ニ邁進セントスル我方ノ最モ遺憾トスルトコロニシテ、茲ニ事變後ノ新事態ニ即應シ、中支那方面ヲ中心トスル内河沿岸航運事業ノ健全ナル發達ヲ計ルノ必要ヲ痛感シ、本公司ノ設立ヲ計畫、昭和十五年二月二十五日之方創立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海黃浦灘二八號

三、事業目的

- (一) 揚子江及中國沿岸ニ於ケル地方的航運業
- (二) 前號ニ關係アル碼頭倉庫業
- (三) 前各號ニ附帶スル事業
- (四) 前項各號ニ揭ゲラレタル關係事業ニ對スル投資並ニ融資

四、政府ノ監督

- (一) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
 - (1) 定款中主要ナル事項ノ變更
 - (2) 社長、副社長ノ選任又ハ解任
 - (3) 政府ノ保證スル社債ノ募集
 - (4) 合併又ハ解散ノ決議
- (二) 政府ハ本公司ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得前項ノ命令ニ依リ損失ヲ生ジタルトキハ政府之ヲ補償ス

五、公司ノ特典

- (1) 本公司ハ拂込株金額ノ三倍ヲ限リ社債ヲ募集スルコトヲ得
- (2) 政府ハ本公司ノ募集スル社債ノ元金ノ償還及利子ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得
- (3) 本公司ハ相當ノ損失ノ補償ヲ爲スコトニ依リ事業經營上必要トスル他人ノ所有スル土地、建物其ノ他ノ物件、又ハ權利ノ收用若クハ使用又ハ制限ヲ爲スコトヲ得
- (4) 本公司ガ事業經營上ノ必要ニ依リ他人ノ所有スル總噸數五百噸以上ノ船舶ヲ買收セントスルトキ、又ハ本公司ノ目的タル事業ト同種ノ事業ヲ總噸數五百噸以上ノ船舶ニ依リ經營スル者ニ對シ、運賃ノ共同計算其ノ他事業ノ經營協力ニ對スル申込ヲ爲シタルトキハ他人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

二五

但シ前二項ニ定メラレタル權限ヲ行使セントストキハ豫メ政府ノ認可ヲ受クベシ
(5) 本公司ガ經營スル事業ニ屬スル土地其ノ他ノ物件並ニ權利ハ他ノ事業ノ爲ニ之ヲ徵收スルコトヲ得ズ
(6) 政府ハ本公司ノ所有スル物件、公司ノ爲ス契約、登記及登錄並ニ公司ノ財産取得及營業ニ對シテハ租税
其ノ他一切ノ公課ヲ免除ス
省、縣、市其ノ他公共團體ニ於テモ特ニ定ムルモノノ外本公司ニ對シ租税及公課ヲ課スルコトヲ得ズ

六、資本金

- 1. 資本金總額 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 一七、〇九四、二〇〇圓
- 3. 株式數 六〇〇、〇〇〇株
- 4. 一株ノ額面 五〇圓

5. 出資狀況

株主	出資ノ種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込	%
日本側	現物	三三、三三三株	一、六六六、六六六圓	五・五	三、三三三、三三三圓	二分ノ一	四・六
支那側	現物	一五、六六六株	七、八三三、三三三圓	二五・五	—	—	—

合計	現金	三三、三三三	一、六六六、六六六	五・五	三、三三三、三三三	二分ノ一	四・六
	現物	一五、六六六	七、八三三、三三三	二五・五	—	—	—

6. 主ナル出資者

株主	出資ノ種類	株數	出資額	拂込額
日本側	現物	三三、三三三株	一、六六六、六六六圓	三、三三三、三三三圓
支那側	現物	一五、六六六株	七、八三三、三三三圓	—

七、事業狀況及今後ノ方針

- (一) 事業狀況
- (二) 船舶航路

昭和十五年度期首ニ於テハ當公司運用船舶ハ社船四隻、備船四隻、運航受託船五隻、租用船四隻、合計十七隻ノ微々タルモノナリシガ、船隊擴充ハ當公司ノ重要計畫トシテ各期ニ亘ツテ買船ニ努メ、昭和十五年度ニ備國籍船五隻、其ノ他、昭和十六年度上期ニ伊國船一隻、華中水産公司船一隻其ノ他、而シテ同下期ニハ汽船、小蒸氣船等五隻ヲ買收シ着々陣容ノ整備ヲ計リタリ。昭和十七年三月末現在運用船舶ハ社船二十七隻、備船四十隻、運航受託船七隻、租用船十隻合計八十四隻ニ及ベリ。

航路ハ昭和十五年度末崇明線、天生港線、新生港線及口岸線ノ四線ナリシガ、昭和十五年度ニ於テ舟山島線及裕溪口線ノ二線ヲ増セリ。舟山島線ハ從來定海自治委員會ノ設置セル華東海運局ノ業務ヲ繼承セルモノニシテ、同島ガ由來中國沿岸交通上ノ要衝タルニ鑑ミ船腹ヲ増配シテ上海舟山島間ノ定期航海ノ擴充ヲ圖リタル外同島内連絡ニ從事セリ。裕溪口線ハ昭和十五年十一月淮南鐵道開通ニ伴ヒ裕溪口港ヨリノ運炭ニ協力セルモノナリ。

昭和十六年度上期ニハ四月北沙線ヲ再開シ、七月末蕪湖大通線、八月末上海寧波線ヲ開航シタリ。同下期ニ於テハ安慶地區、鎮江地區等八線ヲ増加シ、長江中流地區線ヲ整備シタリ。

貨客ノ輸送狀況ハ法幣ノ續落、物資搬出入取縮ノ強化等ニヨリ土產品ノ出廻リ不調ナルニ拘ラズ漸増ノ傾向ニアリ。殊ニ旅客ニアリテハ清鄉工作ノ進捗ニヨル歸郷者ノ増加、揚子江中流航路ノ擴充等ニ基キ乘客ハ激増シ業績頗ル好況ナリ。

尙當公司ハ大冶ノ鐵礦石、淮南ノ石炭及杭木其ノ他重要物資ノ輸送ハ時局下緊急ノ要務タルヲ以テ極力之ガ配船ノ充實ヲ計リタリ。各期ニ於ケル貨客ノ輸送量並ニ同收入左ノ如シ。

	旅 客		貨 物	
	人	員	收 入	入
昭和十五年度	三五、一七〇	八三六、五六八	八五、四一一	一、三四五、五二二
昭和十六年度上期	六二、八二三	一、四三四、五六六	九四、五三三	一、四〇四、五〇〇
昭和十六年度下期	二、二五四、五二八	一、四二六、四八四	一五七、二六八	一、四八二、二七二

(2) 碼頭倉庫

本公司創立ニ際シ出資サレタル碼頭倉庫中上海楊家渡棧、揚子棧以外ノ上海、鎮江、南京、安慶、九江各地ニ散在スルモノハ總テ軍又ハ東亞海運會社ニ於テ使用中ニシテ未ダ接收スルニ至ラズ。現在當公司ニ於テ使用セルモノハ昭和十五年八月軍ヨリ貸下ヲ受ケタル南市棧、昭和十六年三月及六月東亞海運會社ヨリ移管セル楊家渡棧及揚子棧ノ三者ナリ。

南市棧ハ昭和十六年八月其ノ第二號倉庫ヲ當局ニ返還セルヲ以テ第一號倉庫ノミノ經營トナリ、又背後地タル南市方面ノ經濟未回復ノ爲經營上困難尠カラザルモノアリタルモ期ヲ逐ウテ取扱高著増ノ傾向ニアリ。

楊家渡棧ハ専ラ華中鹽業公司披露ノ保管ニ任ジ相當ノ收入アリ。揚子棧ハ當公司及浙東輪船公司ノ寧

波航路並ニ社船ノ繫留等ニ使用セル爲メ重貨、保管ニ不便ナルモ其ノ間ヨク一般雜貨、穀類、杭木等ノ委託ヲ受ケテ業績見ル可キモノアリタリ。
各棧ニ於ケル倉庫收入左ノ如シ。

	南市棧	楊家波棧	揚子棧	計
昭和十五年乙年度	二八、五八八	一〇六、〇五六	二七、四〇〇	二八、五八八
昭和十六年度上期	三四、三八六	一四六、五五〇	二八、八四九	一五七、八四三
昭和十六年度下期	八四、五五六			二五九、九五五

(二) 今後ノ方針

先ヅ運用船舶ノ増強近航船ノ整備充實ヲ圖リ更ニ沿岸諸航路及長江中流ノ地方航路ヲ開拓スルト共ニ海州鹽淮南炭及諸鑛石等中支ニ於ケル重要物資ノ地方的輸送ニ任ゼントス。
次ニ右航路ノ擴充ニ伴ヒテ要スベキ碼頭倉庫ニ關シテハ現在經營中ノモノヲ整備スル外、必要ナル地ニ所要施設ヲ整備シ以テ將來ノ船舶輻輳ニ備ヘントス。

八、役員

董事社長	蘇錫文
董事副社長	渡部重吉
常務董事	山口啓三
同	廉野正
同	黃溥
董事	山中喜一
同	張嶺會
監察人	油谷恭一
同	華翔

華中鐵道股份有限公司

一、設立經過

中支那ニ於ケル鐵道ハ事變ニ依リ甚大ナル被害ヲ受ケ、車輛ハ殆ンド全部持去ラレ、京滬、滬杭甬兩鐵道ノミ
ノ鐵橋破壊約六十ヶ所ニ及ビ軌條枕木トンネル等モ相當ノ破壞ヲ蒙リ、鐵道附屬建物ノ被害約七〇%ニ達セ
リ。長距離バスノ車輛亦全ク姿キ消シ加フルニ公路ノ狀態ハ惡化シ橋梁ハ大半破壊セラレタリ。之等ノ鐵道及
公路ハ占領ト同時ニ軍鐵道隊ニ依リ補修復興ニ着手セラレ鐵道ハ間モナク日本ヨリ補給セル車輛ヲ以テ應急的
運轉ヲ開始セリ。他方鐵道及長距離バスノ本格的復興建設ニ當ルベキ支那特殊會社ノ設立ヲ目論ミ、昭和十四
年四月本公司ノ創立ト共ニ軍管理鐵道中ノ江南ニ於ケル約八百軒ノ經營ヲ引繼ギ、江北部分ハ其ノ後軍管理ノ
儘其ノ經營ノ委任ヲ受クルコトナレリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海閘北民德路

三、事業目的

- (一) 鐵道事業
- (二) 自動車運輸事業 (都市ニ於ケル乗合自動車事業ヲ除ク)

(三) 前各號附帶事業

前項ニ關聯アル事業ニ投資ヲ爲シ又ハ政府ノ認可ヲ受ケ之が經營ヲ爲スコトヲ得

四、政府ノ監督

- (一) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス

(イ) 定款中重要ナル事項ノ變更

(ロ) 政府ノ保證スル社債ノ發行

(ハ) 合併並ニ解散ノ決議

(ニ) 役員ノ選任及解任

(三) 政府ハ本公司ノ事業ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ニ依リ損失ヲ生ジタルトキハ政府之ヲ補償スルコトアルベシ

五、公司ノ特典

(一) 政府ハ本公司ヲシテ中支那ニ於ケル一般運輸ヲ目的トスル鐵道ノ建設經營並ニ主要路線ニヨル自動車運

輸事業ノ統制經營ヲ行ハシム

(二) 本公司ハ事業經營上必要トスル土地其ノ他ノ物件若ハ權利ノ收用、使用又ハ同種事業ノ買收等ニ關シ必

要ナル權利又ハ便宜ヲ享受スルコトヲ得

(三) 本公司ノ經營スル事業ニ關スル土地其ノ他ノ物件並ニ權利ハ他ノ事業ノ爲ニ徵收セラルルコトナシ

三

七、事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

(1) 鐵道事業

中支ニ於ケル鐵道事業ハ、昭和十四年五月一日從來軍管理下ニアリタル江南三角地帯ノ鐵道ヲ繼承シ、次デ同年十月一日江北地帯ノ津浦、淮南兩線ノ運營ヲ軍ヨリ委託セラレ、昭和十五年十月七日淮南北線廬州、九龍崗間八五・九四軒ノ線路復舊開通ヲ遂ゲタルコトニヨリ鐵道幹線ニ關シテハ昭和十五年度ニ於テソノ復舊工事一應完成スルニ至レリ。昭和十六年度ニ於テハ上期ニ於テ吳淞線ニ江灣、新興間及年家宅、飯田棧橋間ノ二支線、南京線ニ南京江口、惠民間、海杭線ニ杭州、南星橋間及同下期ニ南京江口、大馬路間等局地的ニ新設或ハ延長シテ利便ヲ増大セリ。昭和十七年三月末現在ニ於ケル運營路線及軒程左ノ如シ。

線名	區間	營業	客	貨	物
海 南 線	上海—南京間	三一	三一	三一	三一
同 支 線	南京—南京江邊間	二	二	二	二
同 支 線	鎮江—鎮江江邊間	二	二	二	二
同 支 線	龍潭—南龍潭間	二	二	二	二
吳 淞 線	上海—砲台灣棧橋間	一六	一六	一七	一七
同 支 線	江灣—新興間	三	三	三	三
同 支 線	年家宅—飯田棧橋間	八	八	二	二
同 支 線	年家宅—吳淞間	二	二	二	二
海 杭 線	上海—南星橋間	一九〇	一九〇	一九三	一九三
同 支 線	新龍華—南上海間	四	四	四	四
同 支 線	蘇州—嘉興間	七四	七四	七四	七四
南 甯 線	南京—灣沚間	一四二	一四二	一四二	一四二
同 支 線	南京—惠民間	二	二	二	二
同 支 線	南京江口—大馬路間	一	一	一	一
津 浦 線	南京—小北門間	四	四	四	四
同 支 線	浦口—蚌埠間	一七五	一七五	三五〇	三五〇
同 支 線	蚌埠—蚌埠頭間	八	八	八	八
淮 南 線	裕溪口—田家巷間	二二四	二二四	四二四	四二四
合 計		一、二二九	一、二二九	一、五四九	一、五四九

鐵道輸送量ハ國民政府ノ還都以來沿線治安ノ恢復、經濟ノ復興ト相俟テ和平地區ノ交通量並ニ物資ノ

一日平均	六、二二七	四九	六、二二七
昭和十六年度 上期	一、八七四、三五三	一〇、二二〇	一、八〇六、〇三〇
一日平均	一〇、二四二	五六	九、八六九
昭和十六年度 下期	九六六、八七五	五、五一一	一、四五四、〇二九
一日平均	五、三三三	三〇	七、九八六

四〇

昭和十七年三月末現在所有自動車々輛數ハ二六九輛ナリ。

(3) 揚子江渡河施設

揚子江渡河施設ハ鐵道輸送ト相俟ツテ江南江北ノ連絡輸送ノ圓滑ヲ期シ來リ其ノ輸送量モ毎期累増セリ。渡河航路左ノ如シ。

南京—浦口間	一漚	車輛航送及旅客連絡
蕪湖—裕溪口間	六漚	旅客連絡及貨物輸送
采石—裕溪口間	二・五漚	車輛航送
尙新航送船金陵丸(總噸數二七・七噸九七)	ハ既ニ竣工セルヲ以テ近ク南京、浦口間ニ就航ノ豫定ナリ。	

(二) 今後ノ方針

中支那陸運ノ動脈タル本事業ノ伸張ハ軍事、政治並ニ經濟上極メテ緊要ナルモ、現下時局ニ鑑ミ資金資材等ノ關係ヲ慎重考慮シ、運營ノ合理化ヲ圖ルト共ニ線路施設ノ復舊改善及車輛ノ増備ニヨリ輸送力ノ増強ニ努ムル方針ナリ。特ニ津浦、淮南兩線ハ東亞鐵道網ノ一環ヲナスト共ニ時局下船腹不足ヲ補ヒ北支及淮南炭増送ノ使命ヲ分擔セルヲ以テ之ガ輸送ニ遺憾ナキヲ期スル爲メ線路及附帶施設ヲ整備充實セントス。自動車運轉事業ニ於テハ最大限ノガソリン消費規正ヲ行フ爲メ、治安不良ナル路線ヲ廢止スルト共ニ、高能率ナル代燃車ノ研究ヲ進メ以テ重要路線ノ經營ヲ確保スル方針ナリ。

八、役員

總裁	宋 定
副總裁	田 誠
理事	上林市太郎
同	何 志 杭
同	堀 尾 豐 熊
同	村 上 義 一
同	陳 伯 藩
同	園 田 三 朗
同	王 建 民

華中都市公共汽車股份有限公司

一、設立經

中支那ニ於ケルバス事業ハ事變ニ依リ殆ンド停頓狀態ニ歸シタルヲ以テ、之ガ急速ナル復舊ヲ計ランガ爲メ、昭和十三年一月以降興中公司ノ名義ヲ以テ取敢ヘズ營業ヲ開始セリ、次デ之ガ本格的經營ニ當ルベキ華中都市公共汽車股份有限公司ノ設立ヲ促進シ、興中公司バスノ買收、杭州市政府直營バスノ現物出資ニ關スル手續ヲ完了シ、昭和十三年十一月五日日本公司ノ創立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人 格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ普通法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海東體育會路七〇號

三、事業目的

- (一) 中支那主要都市ニ於ケル市内乗合自動車業
- (二) 乗用並ニ貨物自動車業
- (三) 前各號附帶事業

四、政府ノ監督

- (一) 政府ハ本公司ノ業務ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- (二) 本公司ハ別ニ定ムル乗合自動車事業法ノ施行以前ニ於テモ料金其ノ他重要ナル事項ニ付主務官廳ノ認可ヲ受ケベシ

五、公司ノ特典

- (一) 政府ハ本公司ヲシテ中支那主要都市ニ於ケル市内乗合自動車事業ヲ統制經營セシメ、本公司以外ニ同種事業ノ經營ヲ認メズ

備考

- (一) 本公司ノ營業範圍ハ乗合自動車ニ依ル地方交通並ニ都市連絡自動車事業ノ經營ニ及バザルモノトス、但シ既存事業ヲ繼承シタル限度ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- (二) 本公司ハ都市ト近郊トノ連絡バス事業ヲ經營スルコトヲ得

六、資本金

- 1. 資本金總額 三、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 一、二六三、七五〇圓
- 3. 株式數 六〇、〇〇〇株
- 4. 一株ノ額面 五〇圓
- 5. 出資狀況

株主	出資ノ種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込額	%
日本側	現物	五八、八六〇株	二、九四三、〇〇〇圓	九九・六	二、二〇七、二五〇圓	四分ノ三	九九・四
支那側	現物	四〇	二、〇〇〇圓	〇・四	一、五〇〇圓	四分ノ三	〇・六
合計	現物	五八、九〇〇株	二、九四五、〇〇〇圓	一〇〇・〇	二、二〇八、七五〇圓	四分ノ三	一〇〇・〇
支那側	現物	一、一〇〇株	五五、〇〇〇圓	一・九	五五、〇〇〇圓	全額	一・九

6. 主ナル出資者

支那側	日本側	株主	出資ノ種類	株數	出資金額	拂込金額
支那側	日本側	株主	出資ノ種類	株數	出資金額	拂込金額
華中鐵道股份有限公司	中支那振興株式會社	現物	現物	三、一六〇株	一、五五八、〇〇〇圓	一、一六八、五〇〇圓
大日本電力株式會社	大日本電力株式會社	現物	現物	九〇〇株	四五、〇〇〇圓	四五、〇〇〇圓
現物	現物	現物	現物	二七、五九〇株	一、三三九、五〇〇圓	一、〇三四、六二五圓
現物	現物	現物	現物	一〇〇株	五、〇〇〇圓	三、七五〇圓
現物	現物	現物	現物	一〇〇株	一〇、〇〇〇圓	一〇、〇〇〇圓

七、事業狀況及今後ノ方針

(1) 事業狀況

本公司ノ營業地域ハ上海、南京、杭州、蘇州、鎮江及無錫ノ六都市ニシテ、之等ノ都市ニ於テハ國民政府ノ還都以來、治安ノ恢復、中國人復歸者及在留邦人ノ増加等ニ依リ交通量ハ漸増ノ一途ヲ辿レリ。本公司ハ之ニ對應スベク數次ニ互リ増車ヲ行ヒ以テ輸送ノ完備ヲ期スルト共ニ他方ダイヤノ改善、乗車券發賣制度、従業員ノ訓練等極力經營部門ノ改善ニ努メタル結果業績モ逐月向上ヲ見タリ。

然レ共昭和十五年年度末ヨリ燃料油ノ配給制限強化セラレ、昭和十六年度上期末ニ至リテハ遂ニ地方營業所向ガソリンノ配給ハ停止セララル、ニ至レリ。是ニ於テ路線ノ改廢、配車ノ制限等ニヨリ燃料節約及最少限度ノ輸送力保持ニ努ムルト共ニ代燃車輛ノ整備ヲ計畫セル處大東亞戰爭ノ勃發ニヨリ根本的對策ノ樹立ヲ迫ラル、ニ至リタリ。而モ開戰直後實施セラレタル一般乗用車ノ使用制限ハ當公司ノ負擔スル輸送量ノ著増ヲ招來セリ。

カ、ル難局ノ打開策トシテ上海電車會社ノ車輛ヲ以テ上海虹口側ニ電車ノ運轉ヲ開始シ取敢ヘズ北四川路線及楊樹浦線ヲ開通シテ同區間ノバスヲ休止スルコトニヨリ燃料節約及輸送維持ニ當リタリ。他方代燃車輛整備ヲ促進シテ所屬車輛ノ大半ノ代燃化完成シタル爲下期末ニ於テハ輸送力モ漸ク補強セラルルニ至レリ。然レドモ代燃化ニヨル經費ノ増高及能率ノ低下ハ必然ニコスト高トナリ收支ノ均衡ハ著シク低下スルニ至レリ。仍ホ燃料消費費規正ノ結果無錫及上海市ニ於ケル營業ハ夫々昭和十六年十一月及十二月ヨリ休止シタリ。各期末ニ於

[illegible]

四六

各期ニ於ケル輸送成績ヲ比較スルニ左ノ如シ。

路	昭和十五 乙年度 (五ヶ月)	昭和十六年度上期	昭和十六年度下期 (電車ラ含ム)
配車數	三二一・六 二八、八九五・五 一九一・一	三二一・四 三五、二五七 一九二	三三一・六 一八、二六六 一〇五・四
同行	三、六七六、六〇五・〇 二四、三五三・七	四、六五三、一二七 二五、四七二	二、四七八、三九七・七 一六、六〇三・六
輸送人員	一五、三六〇、二四四 一〇一、七二九	一九、二七六、七七六 一〇六、〇五二	一五、八八二、四三二 一〇六、七七六
收入	一、八九四、〇九七・六 一、五四五・四八	二、〇四二、四八二・五 一三、二二九・七三	二、〇四二、四八二・五 一三、〇九一・九二
當收入	五一・五錢 五一・五錢	五一・五錢	八二・四錢

(三) 今後ノ方針

四七

燃料費其他諸經費ノ節減ニ努ムルハ勿論、代燃車ノ効率ノ増進、配車ノ合理化、其他各方面ヨリスル經營ノ再檢討ヲ行ヒ現在所有ノ車輛中ヨリ極力餘力ヲ捻出シ、之ニ依リ生ジタル餘剩車輛ヲ以テ新路線ノ開拓ニ進出セントス。

四八

八、役員

董事長	楊 效 會
副董事長	宋 定 會
常務董事	但 馬 祐 治
董 事	董 明
監察人	野 村 義 男
同 士	莊 士 彝

華中電氣通信股份有限公司

一、設立經過

中支那ニ於テハ支那事變ニ依リ眞茹及劉家行ノ國際無線送受信所ヲ始メ各都市間ノ有線電信電話及市内電話ノ大半ハ破壊セラレ、其ノ復舊ハ占領地域内ノ治安維持ノ爲ニモ、又不正通信ノ取締上ヨリモ急ヲ要シタルヲ以テ、昭和十三年一月其ノ緊急工事ヲ國際電氣通信株式會社並ニ日本電信電話株式會社ノ兩社ニ依リ上海ニ於テ組織セラレタル華中電信公司ナル臨時實行機關ニ委任シタリ。次デ該復舊作業ヲ極力促進スルト同時ニ、中支那全般ニ亘ル電氣通信事業ノ本格的復興並ニ統制經營ニ當ルベキ本公司ノ設立ガ目論マレ、昭和十三年七月三十一日前記華中電信公司ノ施設一切ヲ繼承本公司ノ創立ヲ見タリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法 人 格 日支合辦ニヨル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 關北育嬰堂路一六〇號

三、事業目的

- (一) 中支那ニ於ケル電氣通信事業ノ統制經營
- (二) 電氣通信設備ノ貸付
- (三) 前各號ニ附帶スル業務及關係事業ニ對スル投資

四九

四、政府ノ監督

- (一) 政府ハ本公司ノ事業ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲シ又ハ其ノ設備ニ付公益上必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得
- (二) 前項ノ命令又ハ措置ニ因リ損失ヲ生ジタルトキハ政府之ヲ補償スルコトアルベシ
- (三) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
 - (イ) 定款中重要ナル事項ノ變更
 - (ロ) 社長及副社長ノ選任及解任
 - (ハ) 合併及解散ノ決議

五、公司ノ特典

- (一) 政府ハ本公司ヲシテ中支那ニ於ケル電氣通信事業ヲ統制經營セシメ本公司ノ外ニ同種事業ノ新設ヲ許サズ。既存ノ同種事業ハ連カニ本公司ノ統制下ニ入ラシムルモノトス
- (二) 本公司ハ拂込株金額ノ二倍ヲ限リ社債ヲ募集スルコトヲ得。政府ハ社債ノ元本ノ償還及利子ノ支拂ニ付保證スルコトアルベシ
- (三) 政府以外ノ者ノ所有スル株式ニ付其ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄優先配當ヲナスコトヲ得
- (四) 本公司ノ財産、所得及營業、本公司ノ爲ス契約、登記及登錄並ニ本公司ノ事業ニ要スル物件ニ對シテハ租稅其ノ他一切ノ公課ヲ免除サルモノトス
- (五) 本公司ハ土地ノ收用、電線路ノ建設、道路、河川、橋梁、堤防其ノ他公用土地ノ使用、料金ノ徵收手段及手續等通信事業經營ニ關シ必要ナル一切ノ特權ヲ享有スルモノトス

六、資本金

- 1. 資本金總額 一五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 一五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 3. 株式數 三〇〇、〇〇〇株
- 4. 一株ノ額面 五〇圓
- 5. 出資狀況

株主	出資ノ種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込額	%
日本側	現金	100,000株	5,000,000圓	33.3%	10,000,000圓	全額	66.7%
支那側	現金	100,000株	5,000,000圓	33.3%	10,000,000圓	全額	66.7%
合計	現金	200,000株	10,000,000圓	100.0%	20,000,000圓	全額	100.0%

6. 主ナル出資者

支那側	國	民	政	府	現	物	株數	出資額	拂込額
日本側	中支那振興株式會社	現	金	株	數	出資額	拂込額		
	國際電氣通信株式會社				1,000,000株	¥1,000,000.00	¥1,000,000.00		
	日本電信電話工事株式會社				10,000株	¥1,000,000.00	¥1,000,000.00		
					100,000株	¥5,000,000.00	¥5,000,000.00		

七. 事業狀況及今後ノ方針

(1) 電信事業

本公司設立當時ノ電報取扱局處ハ上海國際電台、上海海岸電台、南京、蘇州、杭州等ノ各電報局ニ過ギザリシモ、爾來各地施設ノ本格的復舊擴充ヲ圖リ、昭和十七年三月末現在ニ於テ、電報取扱局處ハ百六局處、有線電信回線ハ四十一回線ニ達セリ、無線電信施設モ先年眞茹送信所、劉家行受信所ノ復舊完成シ、現在ニ於テハ上海ヨリ東京、大阪、台北、伯林、羅馬、壽府、ブエノスアイレス、盤谷、西貢、廣東、北京、天津、青島、大連、澳門、厦門及船舶ニ夫々直通通信路ヲ有スルニ至レリ。

電報ノ取扱通數ハ逐年増加シ昭和十六年度下期ニ於ケル電報取扱通數ハ三百六十八萬通ニ達シ前年同期ニ比シ二割ノ増加ヲ示セリ。

(2) 電話事業

本公司創立當初ニ於テハ、上海關北、中心區及南京ノ三電話局ニ過ギザリシモ昭和十七年三月末現在ニ於テハ電話交換取扱局ハ二十五局、電話通話取扱局處ハ四十二局處ヲ數フルニ至リ著シキ復舊整備ノ跡ヲ示シ居レリ。

電話加入者數ハ昭和十七年三月末現在ニ於テ一萬八千三百五十名ニシテ、尙申込ヲ受理セルモ未開通ノモノニ付テハ速カニ開通セシムベク極力機材ノ調達ニ努力シ居レリ。

市外電話ハ管内各線ノ外上海天津線、南京青島線及南京濟南線ヲ有シ昭和十七年三月末ニ於テ總數六十一回線ニ達ス。又上海ヨリ東京ニ直通無線電話ニ回路ヲ有スルヲ始メ大阪及大連間ニ各一回路ヲ有ス。

昭和十六年度下期ニ於ケル市外通話及對日本、滿洲、華北間電話通話度數ハ四十二萬度ニシテ前年同期ニ比シ五割九分ノ増加ヲ示シ居レリ。

(二) 今後ノ方針

大東亞戰ノ勃發ト共ニ電信事業ニ在リテハ在上海英米系同種企業ノ業務停止トナリ、電話事業ニ在リテハ米國系上海電話會社及中國電氣會社ノ本公司委託經營トナリタル結果上海ニ於ケル電氣通信事業ノ一元的統制經營ノ態勢確立シタルヲ以テ本公司ハ今後一層技術水準ノ高位維持及經營內容ノ充實ニ努メツ、新情

勢ニ即應シテ東亞通信網ノ一翼タル重大使命ノ遂行ニ邁進セントス。
 即チ昭和十七年度ニ於テハ上海ヨリスボン、河内、蘭貢、馬來ヘノ直通無線電信及台北、西貢、盤谷ニ
 至ル無線電話回路ノ新設ヲ豫定シ又中支内ニ在リテハ上海南京間有線電信ノ高速度通信施設化、上海杭州
 間、上海南京間、上海蘇州間、蘇州無錫間、上海無錫間市外電話回線ノ増設及相當數ノ市外電話加入者増
 加並ニ南京及漢口ニ無線送受信所ノ新設ヲ計畫シ居レリ。

五四

八、役員

董事長	福田耕
副董事長	趙以驥
常務董事	平田耕藏
同	片山活三
同	周鴻熙
董事	楊偉昌
監事	油谷恭一
同	王建民

華中水電股份有限公司

一、設立經過

中支那ニ於ケル電氣及水道ハ軍用上特ニ速カナル復興ノ必要ヲ痛感セラレタルヲ以テ、昭和十二年末迄早ク滿
 鐵及興中公司派遣員ヲシテ基礎調査ニ當ラシメ、取敢ヘズ軍管理ノ下ニ運轉可能ノモノヨリ逐次復活軍用ニ供
 シタルガ、昭和十三年四月其ノ大部分ヲ興中公司ノ委任管理ニ移セリ。
 同公司ハ電氣ニ付テハ日本内地電氣會社二十社ニ依リ組織セラレタル中支電氣組合、水道ニ付テハ内務省支援
 ノ下ニ東京、大阪、名古屋、橫濱各都市水道部ヨリノ派遣員ニ委嘱シ所要ノ作業ニ當ラシメタリ。昭和十三年
 六月三十日上海ニ於ケル支那側電氣水道諸會社ノ現物出資及日本側現金出資ニ依リ華中水電股份有限公司ノ創
 立ヲ見ルニ及ビ、本公司ハ差當リ上海租界外地區及近郊ニ亘ル電氣水道事業ノ本格的復興建設ニ着手スルト共
 ニ其他ノ地方ニ於テモ興中公司ノ行ヒ來レル事業管理一切ヲ繼承セリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人 格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海北四川路阿瑞里二二號

三、事業目的

中支ニ於ケル電氣及水道事業ノ經營

五五

五、電氣事業

(イ) 電燈電力電熱ノ供給

(ロ) 電氣機器具ノ販賣又ハ賃貸

(ハ) 同種事業ニ對スル投資並ニ融資

(ニ) 前記各項ニ附帶スル業務

(三) 水道事業

(イ) 用水ノ供給

(ロ) 前項ニ附帶スル業務

四、政府ノ監督

(一) 本公司ハ政府及地方官署ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

(二) 政府及地方官署ハ本公司ニ對シ公益上必要ナル命令或ハ設備上必要ナル處置ヲ爲スコトアルベシ
前項ノ處置ニ因リ生ジタル損失ハ政府之ヲ補償スルコトアルベシ

(三) 地方官署ハ電氣水道計器試驗所、水質試驗所ヲ設ケ隨時本公司ノ裝置セル電氣、水道計器及水質ヲ試験シ或ハ人民ノ請求ヲ受理シテ試験スルコトアルベシ

(四) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ許可ヲ要ス

(イ) 各種規定及料金ノ制定變更

(ロ) 社長、副社長、常務取締役、取締役、監査役ノ就任或ハ解任

(ハ) 合併或ハ解散ノ決議

(ニ) 社債募集及完了

(五) 本公司ハ左記事項ニ付營業年度後三箇月以内ニ政府ニ報告スルヲ要ス

(イ) 每營業年度計畫ノ大要

(ロ) 株主株數台帳

(ハ) 每營業年度ノ營業報告書、財産目錄、貸借對照表、損益計算書及利益金ノ分配

(ニ) 株主總會決議錄

五、公司ノ特典

(一) 本公司ガ政府ノ許可ヲ受ケタル區域内ニ於テハ何人ト雖モ同一事業ヲ經營スルコトヲ許サズ。但餘額利用又ハ特別ノ理由アルモノハ此ノ限ニ在ラズ

(二) 本公司ハ次ノ各號ニ掲グル事業目的ノ爲外國機械或ハ材料ヲ要スル時ハ政府ニ申請シ關稅減免ヲ受クルコトヲ得

(イ) 各地既設ノ水道或ハ電氣事業ニシテ協議ノ上合作ノ方式ヲ以テ經營スルモノ

(ロ) 從來水道設備或ハ電氣事業設備無キ區域内ノ水道、電氣事業

(ハ) 瀑布或ハ河川ヲ利用シ大量ノ電流ヲ製造シテ各地商辦電燈工場或ハ農事ノ用ニ供セントスルモノ

支那側	日本側	日本電力株式會社	
		日本側	支那側
合 計	現 物	四二九、六〇〇、〇〇〇	四七〇、〇〇〇、〇〇〇
國 民 政 府	計	四三〇、四〇〇、〇〇〇	二二、四八〇、〇〇〇
計		八六〇、〇〇〇、〇〇〇	二二、五〇〇、〇〇〇
		四三、〇〇〇、〇〇〇	七、八七〇、〇〇〇
		二九、〇〇〇、〇〇〇	八、六二五、〇〇〇

六〇

七 資本ノ増減

(イ) 減資

設立當初ニ於ケル上海華商電氣股份有限公司ノ出資財産タル電氣施設ニ關シ二百十萬圓(四萬二千株)ノ選算アリタルコト判明シタルヲ以テ、昭和十四年十二月定時株主總會ニ於テ右出資額ノ訂正ヲ爲シ即チ資本金額二千五百萬圓(五十萬株)ヲ二千二百九十萬圓(四十五萬八千株)ニ變更決議セリ(減資日昭和十四年十二月二十七日)。

(ロ) 増資

本會社ノ重要使命タル中支那ニ於ケル電氣及水道事業ノ一元的統制經營ニ付豫テ鋭意準備工作ヲ進メツツアリシ地方事業接收ニ關シ南京、杭州、咸寧、安慶、蕪湖ノ各電氣事業並ニ南京、杭州、鎮江ノ各水道事業ヲ統合スルコトニ決定シ昭和十五年三月二十日臨時株主總會ニ於テ二十十萬圓(四十萬二千株)ノ増資ヲ決議シ増資後ノ資本金四千三百萬圓(八十六萬株)トナルニ至レリ(増資日昭和十五年三月二十日)。

年三月二十日。

舊 株	新 株	合 計	
		日本側	支那側
計	計	四二九、六〇〇、〇〇〇	四七〇、〇〇〇、〇〇〇
支那側	日本側	四三〇、四〇〇、〇〇〇	二二、四八〇、〇〇〇
計	計	八六〇、〇〇〇、〇〇〇	二二、五〇〇、〇〇〇
		四三、〇〇〇、〇〇〇	七、八七〇、〇〇〇
		二九、〇〇〇、〇〇〇	八、六二五、〇〇〇

七 事業狀況及今後ノ方針

(イ) 復舊狀況

六一

中支那ニ於ケル電氣水道事業ハ支那事變ニ於テ多大ノ損害ヲ被リ之ガ復舊ニハ建設資材ノ不足等種々困難ヲ伴ヒタルモ着々工事ヲ進メ大體舊狀ニ復スルニ至レリ。即チ電氣事業ニ於テハ其ノ最モ被害大ナル發送電設備ノ復舊ニ主力ヲ注ギタル結果開口發電所（杭州）ヲ除キテハ大體戰前ノ狀態ニ復舊セリ。
 電氣事業ノ復舊狀況概ネ次ノ如シ。（委任經營ヲ含ム）

發 電 設 備	事變前（昭和十一年十一月）		昭和十六年九月		昭和十七年三月	
	發電量（一ヶ月）	需用家總數	發電量（一ヶ月）	需用家總數	發電量（一ヶ月）	需用家總數
	一四、二五 KW 三、八三 KWH 二七、八六 KWH 一五、六六 KWH	一五、二五 三、八三 二七、八六 一五、六六	二六、五八 KW 七、五〇 KWH 三、三六 KWH 一〇、九三 KWH	二六、五八 七、五〇 三、三六 一〇、九三	一五、六六 KW 二六、三五 KWH 一八、五〇 KWH 一八、五〇 KWH	一五、六六 二六、三五 一八、五〇 一八、五〇

水道事業ニ於テハ淨水、配水設備ノ復舊並ニ送水給水管ノ修理ニ努メタル結果漏水率ハ著シク低下セリ。
 水道事業ノ復舊狀況次ノ如シ。（委任經營ヲ含ム）

一ヶ月最大給水能力	事變前（昭和十一年十一月）		昭和十六年九月		昭和十七年三月	
	一ヶ月最大給水能力	一ヶ月送水量	一ヶ月最大給水能力	一ヶ月送水量	一ヶ月最大給水能力	一ヶ月送水量
	四〇、〇〇立米 二、六三三四立米	四〇、〇〇立米 二、六三三四立米	四〇、〇〇立米 六、四八二五立米	四〇、〇〇立米 六、四八二五立米	四〇、〇〇立米 四、六六六六立米	四〇、〇〇立米 四、六六六六立米

當社ノ營業地域ハ上海地區以外ニ前述ノ如ク昭和十五年三月新ニ未接收地區ノ電氣事業並ニ水道事業ヲ加ヘ、鎮江電氣事業ニ付テハ同經營者大照電氣公司トノ間ニ協定成リ、同年十月ヨリ委任經營ヲ受託スルコトナレリ。ソノ他軍ヨリ委任經營ヲ受ケタルモノ又ハ軍監督中ニテ中國事業者ト協力セルモノ等九ヶ所ニ及ビソノ概況左ノ如シ。（括弧内ハ豫備ヲ示ス）

(一) 電氣事業
 電 廠 名 運 營 狀 態 舊 設 備 容 量 KW 現 在 可 能 出 力 KW 現 在 最 大 負 荷 KW

上海北部	當社運營	三四、五〇〇	二〇、〇〇〇	一八、八六〇
吳淞永安紡	借社運營	七、一〇〇	三、六〇〇	三、二〇〇
上海南市	當社運營	一六、〇〇〇	六、〇〇〇	(一〇、四〇〇)
上海浦東（廢止）	當社運營	六〇〇	六〇〇	〇
蘇州	軍管理當社運營	一一、八〇〇	八、〇〇〇	六、四〇〇

六三

(2) 水道事業

水廠名	運營形態	水源	濾過池	最大管徑	水管延長
上海北部	當社運營	黃浦江	舊六池	九〇〇耗	一八九、四〇三米
上海南部	當社運營	黃浦江	新六池	七五〇耗	一二六、三四一米
上海市	當社運營	黃浦江	新六池	五〇〇耗	一三、二三〇米
南京	當社運營	揚子江	六池	七五〇耗	一二八、七八九米
杭州	當社運營	貼沙河	三池	四〇〇耗	七三、〇五三米
鎮江	當社運營	揚子江	一五池	二〇〇耗	三七、三五五米
蕪湖	當社運營	揚子江	二池	一〇〇耗	六、〇五二米
漢口	軍管理當社代行	漢水	緩速二六池	三〇〇耗	一一四、〇〇〇米
武昌	軍管理當社代行	漢水	緩速一〇池	二五〇耗	一五、八四〇米
九江	軍管理運營當社協力	贛江	急速四池	五〇〇耗	二、九〇〇米
九江	軍管理運營當社協力	贛江	緩速二池	一五〇耗	四、五六〇米

六五

合計	計	一八三、五一二	九一、二九〇	(二七〇、二〇〇)
常州第一(戚墅堰)	當社運營	一七、六〇〇	一〇、〇〇〇	九、八一〇
常州第二(武進)	軍監督中國事業者運營當社協力	三、五〇〇	二、一〇〇	(二、三八〇)
無錫申新紡	當社運營	七、二〇〇	四、〇〇〇	三、三〇〇
鎮江	軍管理當社運營	五、九五〇	四、五〇〇	二、三八〇
南京	當社運營	三〇、〇〇〇	一七、〇〇〇	一一、二二〇
蕪湖	當社運營	二、一六〇	一、四〇〇	一、三二〇
梁山門(杭州)	當社運營	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、九一〇
閘口(杭州)	當社運營(目下中止)	一五、〇〇〇	〇	〇
松州	軍監督運營當社協力	二〇七	一四〇	一二八
楊州	軍管理中國事業者運營當社協力	三、五〇〇	二、一〇〇	一、三八〇
安慶	當社運營	一、〇四〇	四五〇	三九〇
九江	軍管理當社運營代行	一六、五〇〇	四〇〇	三五〇
漢口	軍管理當社運營代行	四、九〇〇	六、八〇〇	六、〇三九
武昌	軍管理當社運營代行	三、二〇〇	四〇〇	三六四
南呂水電廠	軍管理運營當社協力	一〇〇	二、〇〇〇	八一〇
社(廬山)	軍管理運營當社協力	三〇八	三〇〇	一八
嘉興	當社運營	三〇八	三〇〇	三四一

六四

本公司へ創立以來三度ニ互リ料金率ノ改訂ヲ斷行シ、銳意經營ノ改善整備ヲナス一方、上海地區ニ於テハ徐家匯地區ノ接收、新都市住宅街ヘノ電氣水道供給ノ開始等ヲナシ、地方事業ニ於テハ未接收地區ノ接收等ニ依リ着々事業圖ノ擴大ヲ計リ、營業收入ハ遂次増加シ大東亞戰爭勃發後モ大體順調ノ趨勢ヲ辿リタルモ本年三月ニ入りテヨリ漸ク其ノ影響現ハレ、特ニ電氣事業ニ於テハ季節的需要減少モ加ハリ收入調定額遲減ノ傾向ヲ示セリ。

其ノ營業成績概ネ左ノ如シ。(受託事業ヲ含ム)

	昭和十三年十月	昭和十四年十月	昭和十五年十月	昭和十六年九月	昭和十七年三月
電燈需用家數	二、四三二	六二、九二六	九四、二一〇	一〇三、〇五五	一一〇、九四三
電力需用家數	一七六	二、六二二	一、〇七六	四、五五九	四、八三九
電熱需用家數	五〇	四七二	一、三九四	二、二九八	二、五七二
水道供給口數	三〇二	一六、四〇三	三八、四五四	三三、九四二	三三、四五五
電氣營業收入	一八三、八九〇	五七五、〇六一	一六二、五八一	三三〇、九一〇	三、一六、九五八
水道營業收入	四、〇七六	四、五八四	五二五、〇一六	五八四、〇七九	五一八、二五八

(收入單位圓)

(二) 今後ノ方針

本公司ノ地方事業ヲ統合、休止設備ノ復舊ハ着々進捗シコレニ伴ヒ昭和十五年以降經營第一主義ニ轉ジタ結果業績遂次向上ノ一途ヲ辿リツ、アリ今後モ此ノ方針ヲ堅持シ建設事業ハ概シテ設備ノ脆弱性乃至運行性ノ匡正ヲ主眼トスル復舊改善ヲ行ハントス。尙最近ニ至リ大東亞戰爭ノ影響漸次現ハレ特ニ電氣事業收入調定額減少ノ兆ヲ示セリ、此ノ傾向ハ當分繼續スルモノト思料セラル、ヲ以テ之ヲ補填策ニ關シ銳意考究中ナリ。

八、役員

董事長	湯澄波
副董事長	青木節
常務董事	堀江勝巳
同	王學農
董事	盛恩顧
同	古城良知
監察人	油谷恭一
同	除春榮

大上海瓦斯股份有限公司

一、設立經過

上海新都市地域ノ發展ニ伴ヒ、在租界外國系瓦斯會社ノ同地域ヘノ進出ヲ阻止シ、該地域ニ於ケル瓦斯事業ヲ把握スルト共ニ、將來新都市計畫ノ實施ニ支障ナカラシムル爲、昭和十三年十二月二十七日日本公司ノ創立ヲ見タリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ普通法人タル株式會社
- (二) 本店所ノ在地 上海新市街共榮路二號上海恒産ビル一階

三、事業目的

- (イ) 瓦斯ノ供給
- (ロ) 瓦斯副生物ノ精製並ニ販賣
- (ハ) 前各項ニ附帶スル事業

四、政府ノ監督

- 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
- (イ) 定款中重要ナル事項ノ變更

(ロ) 社長、副社長ノ選任及解任

(ハ) 合併及解散ノ決議

五、公司ノ特典

- (イ) 政府ハ本公司ヲシテ上海ニ於ケル瓦斯事業ヲ統制經營セシメ本公司以外ニ同種事業ノ新設ヲ認メズ
- (ロ) 本公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ土地收用等事業ノ遂行上必要ナル特權ヲ享有ス
- (ハ) 政府ハ本公司ニ對シ國稅以外ノ公課ヲ免除ス。但シ一定ノ利益アリタルトキハ、別ニ契約スルトコロニ從ヒ上海市政府ニ對シ公納金ヲ納付スベシ

六、資本金

- 1. 資本金總額 三、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 一、六〇〇、〇〇〇圓
- 3. 株式數 六〇、〇〇〇株
- 4. 一株ノ額面 五〇圓
- 5. 出資狀況

株主	出資ノ種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込	%
日本側	現金	五、〇〇〇株	二、五〇〇、〇〇〇圓	九三・三	一、四〇〇、〇〇〇圓	二分ノ一	八七・五
	現物	一	五〇圓				

六九

六八

七、事業状況及今後ノ方針

(一) 事業状況

昭和十五年十月完成ヲ見タル吳淞ニ於ケル瓦斯工場ノ機械設備左ノ如シ

室式瓦斯發生器

瓦斯精製装置

瓦斯溜

同工場ヨリ上海新都市區域ノ中心點タル五條ケ辻ニ至ル本管及同附近ノ供給管理設工事を完了シ昭和十五年十一月ヨリ瓦斯配給ヲ開始セリ。同地區一帯ノ瓦斯供給事業ハ一應豫定ノ業績ヲ擧ゲツ、アルモ、配給戸數未ダ漸ク八百餘戸ニ過ギザル状態ニアルヲ以テ依然コークス、タール等ノ副産物ノ製造販賣ニ主力ヲ

注ギツアル現状ナリ。

瓦 ス コ ー ク ス タ ー ル 計	昭和十五年乙年度		昭和十六年度上期		昭和十六年度下期	
	販 賣 量 立 方 米	販 賣 收 入 圓	販 賣 量 立 方 米	販 賣 收 入 圓	販 賣 量 立 方 米	販 賣 收 入 圓
瓦	五、八八	九、七五	三、四三	三、六二	三、四三	四、六九
コークス	一、七三	三、六五	九〇、六六	九〇、六六	三、五七	六、六二
タール	四、七五	五、四六	二、四三	二、四三	一、八三	四、三三
計	七、一〇	一八、八六	六、六六	一六、七〇	八、八三	一五、七四

七一

6. 主ナル出資者

支那側	株 主	出 資 ノ 種 類	株 數	出 資 額 圓	拂 込 額 圓
日本側	中支那振興株式會社	現 金	三六〇、〇〇〇株	一、八〇〇、〇〇〇圓	九〇〇、〇〇〇圓
	東邦瓦斯株式會社		一三 五一〇	六七五、五〇〇	三三七、七五〇
	東京瓦斯株式會社		三 〇〇〇	一五〇、〇〇〇	七五、〇〇〇
	大阪瓦斯株式會社		一 〇〇〇	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
	神戸瓦斯株式會社		一 〇〇〇	五〇、〇〇〇	二五、〇〇〇
	西部瓦斯株式會社		五 〇〇	二五、〇〇〇	一二、五〇〇
	九州瓦斯株式會社		三 〇〇	一五、〇〇〇	七、五〇〇
	日本水電株式會社		三 〇〇	一五、〇〇〇	七、五〇〇
支那側	上海恒産股份有限公司	現 物	四、〇〇〇株	二〇〇、〇〇〇圓	二〇〇、〇〇〇圓
合 計	現 物	四、〇〇〇株	一〇〇、〇〇〇株	二、四〇〇、〇〇〇圓	一、〇〇〇、〇〇〇圓
支那側	現 金	四、〇〇〇株	六・七	二〇〇、〇〇〇圓	一二・五

七〇

(一) 今後ノ方針

將來情勢ノ推移ニ應ジ適宜ノ經營方針ヲ探リ、新都市地域ニ建設セラル、一般住宅ニ對シ最少限度ニ於テ瓦斯供給ヲ行フト共ニ租界上海瓦斯會社ト供給本管ヲ連結シ餘剩瓦斯販賣、瓦斯料金ノ統制等兩經營體ヲ一元的ニ合理化シ業績ノ向上ヲ計ラントス。

七二

八、役員

董事長	未定
副董事長	未完
常務董事	吉原迪
董事	陳紹嫻
同	石倉巳吉
監察人	野村義男
同	裴鳴玉

上海恒産股份有限公司

一、設立經過

上海港ノ經濟的發展ニ備ヘ戰後ノ新事態ニ即應シツ、日支兩國勢力下ノ理想都市ヲ建設スベク昭和十二年末上海都市及ビ港灣計畫ニ着手シ一般土地賣買ヲ禁ズルト共ニ、諸般ノ調査立案ヲ進メ、昭和十三年八月ニ至リ略成案ヲ得タリ。而シテコレガ建設事業ハソノ重要性ニ鑑ミ最モ能率的ナル企業組織ヲ以テ運營ニ當ラシムルコト、シ、事業ノ基礎タルベキ土地ノ取得ニツキ慎重ナル研究ヲ重ネ又維新政府ノ特別ノ支援ヲ得ルコトノ諒解モ成リ、同年九月十日本公司ノ創立ヲ見タリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海新市街共榮路二號

三、事業目的

上海附近ニ於テ左記事業ヲ經營ス

- (一) 都市建設事業
- (二) 港灣建設事業
- (三) 土地及建物ノ賣買、賃貸、其ノ利用及管理

七三

- (四) 不動産信託業務
- (五) 其ノ他前各號ニ附帶スル業務

四、政府ノ監督

- (一) 本公司ハ上海恒産股份有限公司章程ノ規定ニ依リ業務上政府ノ監督ヲ受ク
- (二) 本公司ハ都市建設及港灣建設事業ノ實施ノ進捗ニ伴ヒ道路公園等ノ公共設備ヲ政府ニ引渡スベシ。但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- (三) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
 - (1) 董事長及副董事長ノ選任及解任
 - (2) 定款中重要ナル事項ノ變更
 - (3) 公司債ノ募集
 - (4) 彩票ノ發行
 - (5) 事業上ノ重要事項及利益金ノ處分
 - (6) 合併及解散ノ決議

五、公司ノ特典

- (一) 本公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ、都市建設及港灣建設事業ノ爲必要ナル土地ヲ收用スルコトヲ得
- (二) 本公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ、都市建設及港灣建設事業ノ實施ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシ

テ、其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ、之ニ要スル費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

- (三) 本公司ノ所有セル土地ニシテ賃借權ノ設定ナキモノニハ地租ヲ免除ス
- (四) 本公司ハ一億圓ヲ限リ公司債ヲ募集スルコトヲ得

本公司ノ公司債ハ之ヲ割増金付ト爲スコトヲ得

本公司ノ公司債ハ公司法第七十八條ノ規定ニ拘ラズ額面金額ヲ十圓迄下スコトヲ得

- (五) 本公司ハ法令ノ定ムルトコロニ依リ彩票ヲ發行スルコトヲ得
- (六) 政府ハ本公司ノ募集スル公司債ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付保證ス
- (七) 本公司第一回公司債ハ法令ノ規定ニ依リ政府ニ對スル保證又ハ擔保トシテ寄託又ハ供託ニ之ヲ利用スルコトヲ得

(八) 本公司ハ政府ノ認可ヲ得テ其ノ第一回公司債ヲ本公司ノ株式拂込金ニ利用セシムルコトヲ得

(九) 本公司ハ株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

(十) 本公司ハ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄政府ノ所有スル株式ニ對シ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ要セズ

(十一) 本公司ノ毎營業年度ニ於ケル配當シ得ベキ利益金額ガ政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込金額ニ對シ年百分ノ六ノ割合ニ達セザルトキハ、政府ハ其ノ不足額ニ相當スル金額ヲ補給ス

六、資本金

6. 主たる出資者

株主	日本側	支那側	合計
出資ノ種類	現金 現物	現金 現物	現金 現物
株数	100,000株	100,000株	100,000株
出資額	10,000,000圓	10,000,000圓	10,000,000圓
%	50	50	100
拂込額	7,500,000圓	10,000,000圓	17,500,000圓
拂込	四分ノ三	全額	四分ノ三
%	42.9	57.1	100.0

1. 資本金總額 120,000,000圓
2. 拂込額 17,500,000圓
3. 株式數 400,000株
4. 一株ノ額面 50圓
5. 出資状況

七六

七. 事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

1. 建設工事進捗狀況

創業以來鋭意努力シ來リタルモ資金並ニ資材不足ノタメ當初ノ計畫通り實行スル能ハズ當分工事量ヲ減シ將來ノ情勢好轉ヲ待ツコトトセリ。概要左ノ如シ

(イ) 都邑施設

七七

支那側	日本側	株主	出資ノ種類	株数	出資金額	拂込金額
國民政府	中支那振興株式會社 裕豐紡績株式會社 上海製造絹絲株式會社 上海紡績株式會社 内外綿株式會社 大日本紡績株式會社 同興紡績株式會社	現物	現金	100,000株	10,000,000圓	3,750,000圓
現物	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	9,375,000圓
〃	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	7,500,000圓
〃	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	6,000,000圓
〃	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	6,000,000圓
〃	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	3,750,000圓
〃	〃	〃	〃	100,000株	10,000,000圓	3,000,000圓

(一) 道路及廣場工事

市中心區分讓區域及吳淞工業地帶連絡地域ニ於テ道路及廣場基礎工事(路盤拵、屑煉瓦敷均轉壓)、主要部ノ簡易補裝及街渠並ニ雨水排水設置ヲ繼續施工、特ニ維新廣場碎石道仕上及維新路補裝工事ヲ行ヘリ。

(二) 下水道工事

市中心區五條ヶ辻附近第一次分讓區域内ニ於テ幹線、枝線ノ一部、唧筒場沈砂池、雨水吐渠ノ大部ヲ完成セルモ尙全體トシテ利用可能ノ域ニ達セズ。依テ振興住宅組合住宅、華興商業銀行住宅、國民學校等ニ就テハ應急的措置ヲ講ジタリ。

(三) 港灣施設

(一) 吳淞クリーク運河化工事

小南翔ヨリ紀王廟鎮附近蘇州河ニ至ル六千七百米ノ區間ニ運河ヲ開通スル爲メ人力ニ依ル掘鑿ヲ施行シ來レルモ情勢上昭和十六年度下期ヲ以テ一先ツ中止スルコト、セリ。

(二) 吳淞クリーク築港化工事

吳淞クリーク黃浦江放流地域ヲ築港化シ工業港ト爲ス爲メ引續キ人力掘鑿機械力運搬ヲ施工ニシテ、同時ニ工業地帶ノ埋立造成ヲ爲シ居レリ。

(三) 戎克溜工事

虬江碼頭北方華亭島西側ニ戎克船收容地ヲ造リ且倉庫、荷役場ヲ設ケントシ人力及浚深船ニ依ル掘鑿ヲ小規模ニテ施工シ來レルモ情勢上一先ツ中止ノ已ムナキ狀態ニアリ。

(四) 虬江碼頭改修工事

上海滄浦局ノ黃浦江土砂浚渫作業ニ協力碼頭附近ノ改修ヲ行ヒ併セテ土地ノ埋立造成ヲ爲シ居レリ。

2. 事業用地

事業用地ノ内中國政府出資土地七、三七一、八四三平方米ハ尙未働資産タルニ鑑ニ之ヲ活用ヲ考慮中ナリ。

土地ノ取得ハ本公司ニ對スル一般ノ認識次第ニ深マリシ結果土地申報者モ漸増ノ傾向ニアリ政府ニ依ル徵用ト相俟ツテ順調ニ取得シ居レリ。收用買收土地面積並ニ金額左ノ如シ。

民地收用買收	昭和十五年	昭和十五年乙	昭和十六年度上期	昭和十六年度下期
買收金額	二、六五、五〇〇圓	五〇、〇〇〇圓	三〇、一五〇圓	一、四七、七五〇圓
内(一) 公司債交付額	二、四〇〇圓	四四、〇〇〇圓	一、九三〇圓	一、四六、六〇〇圓
内(二) 現金支拂額	九、八、八〇〇圓	一、五、二〇〇圓	一、九、〇〇〇圓	三、〇、六〇〇圓
内(三) 現金支拂額	一、三、四、四四圓	一、〇、九八圓	五、四四圓	三、三、三三圓

3. 土地分讓

市中心區土地分譲ハ昭和十四年度ヨリ引續キ實行中ニシテ、尙昭和十五年七月ヨリ吳淞工業地帯分譲ヲ開始セリ土地分譲狀況左ノ如シ。

八〇

	昭和十五年度	昭和十五年乙年度	昭和十六年度上期	昭和十六年度下期
分譲總面積	八三七、〇九九 平方米	五四、五七六 平方米	一八一、九三八 平方米	五三二、五七八 平方米
公共地區	一四六、九二〇	一九、六一六	七、七〇九	二七七、九八二
住宅地區	三七五、六三二	三三、八九〇	六五、八四六	二一、二四六
商業地區	一一四、〇八一	一、〇六九	八四、五一八	三〇、〇一一
雜居地區	三五、四六五	—	一七、二五四	—
工業地區	一六五、〇〇〇	—	六、六一一	二〇三、三三九
分譲金額	五、九三一、〇六八圓	二七八、九三八圓	四五九、五七四圓	六八六、三九六圓
內收入金額	三、一二九、四一〇圓	一三七、四九六圓	五八二、四三六圓	八四四、三四二圓

1. ブロードウェイ・マンションノ經營

昭和十四年三月當局ノ指導及資金轉讓ニ依リ上海業廣地產有限公司ヨリ買収シタルブロードウェイ・マンションノ經營ハ位置ノ良好施設ノ優秀ニ依リ顧客ヲ吸引シ引續キ業績向上シツ、アリ。

5. 建物賃貸經營

東亞興業株式會社建設ニ係ル東興新邨家屋一二〇戸ヲ一括賃借ノ上之ヲ振興會社並ニ其ノ關係會社及一般ニ賃貸シ以テ住宅難ノ緩和ニ資シ、又本公司所有家屋一二戸ヲ興亞院華中連絡部ノ使用ニ供

シツ、アリ尙華中興業股份有限公司、大上海瓦斯股份有限公司等振興關係各社並ニ領事館警察署其ノ他ニ對シ本社社屋ノ一部ヲ賃貸シ居レリ。

6. 輕便軌道經營

昭和十七年度分譲開始豫定地區ノ幹線道路タル維新路ハ現在華中都市公共汽車公司運轉休止中ナルニ鑑ミ、市中心區、虹口間交通ノ便ヲ計リ兼ネテ土地分譲計畫ニ資スル目的ヲ以テ、運轉再開可能時期迄ノ期間ノミヲ條件ニ、建設工費用牽引車及土運車ヲ改造ノ上、昭和十七年二月ヨリ營業ヲ開始セリ。

(二) 今後ノ方針

本公司ハ事業ノ性質上資金並ニ資材ヲ要スルコト極メテ大ナルモノアレ共、現下諸般ノ情勢ハ本公司ヲシテ充分其ノ満足ヲ伸バスコトラ許サズ。依ツテ所定計畫事業實施期間ヲ延長シ事業ノ緩急ヲ計リツ、情勢ニ順應セントス。

八、役員

- 董事長 陳紹鵠
- 副董事長 朱守貞
- 董事 矢守貞 吉
- 同 菱田逸次
- 監察人 程進脩

華中鑛業股份有限公司

八三

一、設立經過

中支那ノ鐵鑛資源ヲ統制開發シ、製鐵擴充計畫ニ伴フ鐵鑛石ノ急需ニ應ゼンガため、支那側鑛業權ハ設立後適當ナル評價ヲ俟テ現物出資セシムルコト、シ、取敢ヘズ日本側ヲ主トスル現金出資ノミニヨ昭和十三年四月八日本公司ヲ設立シタリ。

支那側ノ出資スベキ鐵山ノ價額ハ昭和十三年六月下旬實業部ノ任命シタル評價委員會ニヨリ、其ノ現地實測及鑛石分析ノ結果ニ基キ一千萬圓ト評價セラレ、十四年七月二十七日右出資ヲ以テ資本金一千萬圓ヲ増資シ、總額二千萬圓トナルニ至レリ。

本公司ハ當初ノ名稱ヲ華中鐵鑛股份有限公司ト稱シタルモノノ後鐵鑛以外ノ中支那特有鑛物ヲモ速カニ開發スベキ必要ヲ痛感スルニ至リ昭和十三年十二月十六日臨時株主總會ヲ開催シ之等諸鑛物ノ開發事業ヲモ併セ營ミ得ル様定款ヲ變更シ、名稱ヲ現在ノ如ク改メタルモノナリ。

二、法人格及本店ノ所在地

(一) 法人格 日支合辦ニヨル中國政府ノ普通法人タル株式會社

(二) 本店ノ所在地 上海北四川路六四一號

三、事業目的

(一) 中支那ニ於ケル鐵鑛並ニ其ノ他ノ鑛物ニ關スル鑛業

(二) 鑛業ニ對スル投資及之ニ附帶スル業務

四、政府ノ監督

(一) 政府ハ本公司ノ業務執行ニ關シ公益増進又ハ鑛物資源開發統制ノ爲必要ナル命令又ハ處分ヲナスコトヲ得

(二) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス

(イ) 定款中重要ナル事項ノ變更

(ロ) 社長及副社長ノ選任及解任

(ハ) 合併及解散ノ決議

(三) 政府ニ對シ必要ニ應ジ業務若ハ財産ノ狀況ニ關シ報告ヲナスコトヲ要ス

五、公司ノ特典

(一) 政府ハ本公司ヲシテ國防上重要ナル鑛物資源(實業部ノ指定ヲ經タル鑛物)ノ確保及其ノ開發統制ヲ行ハシム

(二) 本公司ガ取得シタル國營鑛業ノ承租權及鑛業權ハ實業部長ノ許可ヲ得テ之ヲ第三者ニ出租スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業法第五條第一項及第三項ノ規定ハ之ヲ準用セズ

(三) 本公司及其ノ承租人ノ採掘スル國營鑛物ニ付テハ鑛業法第九條第三項ノ規定ハ之ヲ準用セズ

八三

	○	○	○	○
	○	○	○	○
四	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
	○	○	○	○
五	○	○	○	○
○	○	○	○	○
○	○	○	○	○
圓	株	圓	圓	

(四) 鑛業法第五條ノ縣市政府及第五十二條ノ所管地方政府ノ優先權ニ關スル規定ハ本公司ノ出願又ハ申請付テハ之ヲ適用セズ

(五) 本公司ノ有スル鑛業權ニシテ政府ノ出資シタルモノ及本公司ガ自ラ採掘ヲ爲サズ又ハ未ダ第三者ニ出租セザルモノニ付テハ鑛區稅ハ之ヲ免除ス

(六) 本公司 鑛業權ノ出願及鑛業權設定ノ登記ノ申請ニ付テハ出願及許可證下付ノ手数料ヲ免除ス

(七) 政府ノ出資シタル鑛業權ニ付テハ鑛業稅ヲ免除ス

6. 主ナル出資者

7. 資本ノ増減

八五

昭和十三年四月八日設立ノ當初ハ日本側ヲ主トスル現金出資一千萬圓(四分ノ一拂込)ナリシガ、昭和十四年七月二十七日維新政府ノ現物出資一千萬圓ヲ加ヘ資本總額二千萬圓トナレリ。現物出資ノ内容ハ(1)鐵礦區(中支三山鎮附近以東長江沿岸及錢塘江以西太湖附近ノ埋藏鐵礦全部ヲ含ム)及其ノ附屬施設一切、之ガ評價額九百八十萬圓(2)馬鞍山輕便鐵道及其ノ附屬施設一切、之ガ評價額二十萬圓合計一千萬圓トス。而シテ現物出資ニ付テハ出資物件ノ態様ヲ考慮シ、普通株及後配株ノ二種ニ區分ス。其ノ株數及金額左ノ如シ。

普通株 七八、四七七株 三、九二三、八五〇圓
後配株 一二一、五二三株 六、〇七六、一五〇圓

七、事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

當公司ハ國防資源供給會社タル重責ニ鑑ミ最高度生産力發揚ヲ旨トシ、資材關係、山元事情乃至船繰都合等ニ於ケル諸困難ヲ克服シツ、一意鐵礦石、螢石等ノ増産ニ邁進シツ、アリ。當公司ノ事業場ハ馬鞍山、桃冲、湖州ノ各鐵礦所ノ外ニ昭和十六年一月ニ鳳凰山鐵礦所、同九月ニ銅官山、象山及保安ノ各鐵礦所ヲ新設セリ。馬鞍山鐵礦所(南山、四山、鐘山、小姑山、大姑山、釣魚山)ハ當公司事業ノ主力ヲナシ、擴張計畫及採掘作業ハ順調ニ進捗シタリ。桃冲、鳳凰山及銅官山ハ復舊並ニ開發作業ヲ併行中ニシテ、建設計畫ノ略々七〇%ヲ遂行シタリ。各山ノ鐵礦石對日供給ハ極メテ順調ニシテ桃冲ハ昭和十五年七月ヨリ、

鳳凰山ハ昭和十六年一月ヨリ夫々供給ヲ開始シ、昭和十七年七月銅官山ノ積出ヲ以テ計畫ハ一應ノ完成ヲ豫想セラル、ニ至レリ。

湖州鐵礦所及象山鐵礦所ノ螢石ハ採掘準備作業ノ整備ニ伴ヒ出鑛漸増ヲ見ツ、アリ。

(單位延)

年	月	探 鑛 量	運 鑛 量	對 日 積 出 量	江 岸 貯 鑛 量
昭和十四年度	一月	三三四、一九九	三一六、一九九	二二六、八六五	一〇、五三三
昭和十五年度	一月	五二九、七〇四	五〇八、五四〇	五二九、三六四	七〇、九〇二
昭和十五年一月	二月	七三、六三一	六九、八二二	八三、四五六	五六、三八五
昭和十五年一月	三月	七二、八四八	六四、四〇五	七六、四七〇	四二、七三九
昭和十六年一月	四月	八六、一四六	七〇、一七六	七五、一一七	三九、五二四
昭和十六年一月	五月	五八、二四五	六二、一〇一	六八、〇九八	二二、三八七
昭和十六年一月	六月	一〇六、三六七	九八、五六八	七四、七一九	四六、二三七
昭和十六年一月	七月	三九七、二三七	三六六、一〇八	三七七、八六〇	四六、二三七
昭和十六年度合計		一〇三、〇三九	九七、五二七	九二、三八二	五一、三三三
昭和十六年四月		九七、二四三	九四、一九一	七九、九二六	六五、五九七
昭和十六年五月		九七、六九九	九〇、二一六	一二三、六九八	三二、一六四
昭和十六年六月		九六、三二七	九八、七七二	七三、七七〇	五一、六二三

八七

八六

馬鞍山 桃沖 其他 計	八月	九四、三九六	九四、一四九	八九、七〇五	五四、八三八
	九月	一〇五、〇四六	一〇八、二九二	一〇二、九七五	六四、六三五
	昭和十六年度上期合計	五七五、七五〇	五八三、一四六	五六二、四五六	六四、六三五
	昭和十六年 十月	一〇六、四四〇	一二六、七二九	七六、九一六	五九、二一七
	十一月	一〇四、九四二	一二二、一五五	一一四、四八一	六一、一二八
	十二月	一二四、五八〇	一三九、二六七	一三六、二〇八	七五、一七六
	昭和十七年 一月	八五、九五五	一三三、五七〇	一二七、四三五	六二、八六四
	二月	一〇五、三八四	九八、一三五	一〇三、四九二	一一九、一二六
	三月	一四七、七四一	一六七、四六一	一四〇、八三七	一一六、八五二
	昭和十六年度下期合計	六七五、〇四二	七八七、三一七	六九九、三六九	一三六、八五二
	尙參考ノ爲事變前ニ於ケル出鱈量及増産計畫完成後ノ出鱈豫想量ヲ掲記スルニ左ノ如シ。(單位: 噸)				
	事變前最盛期 (一ヶ年)	事變直前 (一ヶ年)	増産計畫完成後豫想 (一ヶ年)		
	三五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	
	三〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	
	六五〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	

斯クテ鐵鑛増産ニ努ムル傍、滿鐵鑛、硫磺鑛、石灰等中支ニ於ケル重要鑛産資源ノ統制開發ニ當ルベキ重要使命ノ遂行上引續キ鑛産資源調査ニ多大ノ努力ヲ拂ヒ、且鑛産ボーリング調査ノ爲昭和十五年七月申支那ボーリング組合ノ設立ニ際シテハ之ニ出資シテ其ノ事業ヲ支援スルト共ニ、上海ニ中央分析所ヲ開設シ當公司並ニ一般ノ鑛石分析ノ需要ニ應ジツ、アリ。

(二) 今後ノ方針
緊急ナル國防上ノ要請ニ基キ日本製鐵業ノ鐵鑛石急需ニ即應スベク非常増産計畫ヲ樹立シ、昭和十七年下期以降三箇年間ニ亘リ、毎年二百五十萬噸ノ對日供給ヲ行ハントス。而シテ本計畫ノ完成近キニ鑑ミ愈々經營體制ヲ整備シ以テ極力生産原價ノ低下ニ努メントス。具體的ニハ昭和十七年度ニ於テハ馬鞍山、鳳凰山ヲ主力トシ對日供給二百萬噸ヲ期セリ。鑛石ハ日本ノ需要ニ應ゼンガ爲、生産並ニ輸出ノ統制ヲ計リ増産計畫ヲ樹立スルト共ニ買鑛ヲモ併セテ湖州ヨリ一萬噸、象山ヨリ三萬噸ヲ計畫セリ。桃沖ニ於ケル石灰採掘ハ自家用及地賣トシテ小規模ナルモ昭和十七年度ニ於テハ七千二百萬噸ヲ豫定セリ。尙武漢地區需要石灰ノ現地自給確保ヲ目標ニ復舊開發ニ着手セル保安炭田ハ五萬噸生産ヲ目標トス。
其ノ他、鳳凰山西方ノ玉山滿鐵鑛ハ三萬噸ノ對日供給ヲ、又南山向山ノ硫磺鐵鑛ハ現地向七千八百萬噸ノ生産ヲ期セリ。

八 役 員
董 事 長 磯 谷 光 亨

同	監	同	同	董	常	副
	察			事	務	董
	人				董	事
						長
盛	阿	袁	白	植	細	沈
恩	部	乃	石	村	木	粹
顯	勇	寬	元	癸	盛	陽
			治	巳	枝	
			郎	男		

九〇

淮南煤礦股份有限公司

一、設立經過

淮南炭田ハ埋藏量一億噸ト稱セラルル中支那ニ於ケル最モ有力ナル炭田ニシテ、事變ニ依リ敵側ノ破壞ヲ蒙ルトコロトナリタルモ、我軍占領後逸早く軍管理ノ下ニ三井鑛山及三菱鑛業ノ兩社ニ依囑シ其ノ復舊ヲ急ガシメ、次イデ一般産業ノ復興ニ伴フ石炭ノ急需ニ應ジ速カニ低廉豐富ナル石炭ノ供給ニ當ラシメンガ爲、昭和十四年六月十五日日本公司ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法 人 格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ普通法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海吳淞路六六九號

三、事業目的

- (一) 石炭ノ採掘及販賣
- (二) 前項ニ附帶スル事業

四、政府ノ監督

特定事項ナシ

五、公司ノ特典

九一

特定事項ナシ
六、資本金

- 1. 資本金總額 一五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 一五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 3. 株式數 三〇〇、〇〇〇株
- 4. 一株ノ額面 五〇圓
- 5. 出資狀況

株主	種類ノ	株數	出資額	%	拂込額	拂込%
日本側	現金	一八三、〇〇〇株	九、一五〇、〇〇〇圓	六一・〇	九、一五〇、〇〇〇圓	六一・〇
支那側	現金	三〇、〇〇〇株	一、五〇〇、〇〇〇圓	三九・〇	一、五〇〇、〇〇〇圓	三九・〇
合計	現金	二一三、〇〇〇株	一〇、六五〇、〇〇〇圓	一〇〇・〇	一〇、六五〇、〇〇〇圓	一〇〇・〇
	現物	八七、〇〇〇株	四、三五〇、〇〇〇圓		四、三五〇、〇〇〇圓	
	合計		全額		全額	

6. 主ナル出資者

株主	主	出資ノ種類	株數	出資額	拂込額
日本側	中支那振興株式會社	現金	八三、〇〇〇株	四、一五〇、〇〇〇圓	四、一五〇、〇〇〇圓
	三井鑛山株式會社	現物	六〇、〇〇〇株	三、〇〇〇、〇〇〇圓	三、〇〇〇、〇〇〇圓
	三菱鑛業株式會社	現物	四〇、〇〇〇株	二、〇〇〇、〇〇〇圓	二、〇〇〇、〇〇〇圓
支那側	國民政府	現物	三七、〇〇〇株	一、八五〇、〇〇〇圓	一、八五〇、〇〇〇圓
	大通煤礦股份有限公司	現物	五〇、〇〇〇株	二、五〇〇、〇〇〇圓	二、五〇〇、〇〇〇圓
	華中鑛業股份有限公司	現金	三〇、〇〇〇株	一、五〇〇、〇〇〇圓	一、五〇〇、〇〇〇圓

七、事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

當公司ハ各期ヲ通ジテ九龍關東西兩礦及大通礦ノ復舊並ニ擴張ニ全力ヲ傾倒シ、出炭量ハ略々豫定通りノ増加ヲ示シタリ。而シテ昭和十五乙年度ヲ以テ復舊時代ハ一應ノ目標ニ到達シタルニヨリ昭和十六年度以降増産五ヶ年計並ニ樹テ資金ノ充實、職制ノ改革ヲ斷行シテ業務ノ進展ヲ期シタル處昭和十六年度上期央ヲ過ギテ各種ノ坑内災害頻發シ、爲ニ多少生産ハ低下シ、出炭豫定三十七萬一千噸ニ對シ實績三十四萬五千噸差引二萬六千噸(七%)ノ減産トナレリ。然レドモ上期末ニ至リテ漸ク恢復ノ歩ヲ進メ、下期ニ於テ

ハ資材及勞力難ニ遭遇セルモ復舊、擴張事業順調ニ進ミ、出炭量ハ四十二萬六千五百瓩ニ達シ上期ニ比シテ約八萬一千瓩ヲ増シ、下期豫定量ヨリ約四萬七千五百瓩ヲ超過シタリ。
尙分礦開鑿擴張工事モ順調ニ進ミ昭和十七年度下期ニハ採炭ヲ開始スベク準備中ナリ。
各期ニ於ケル出炭、賣炭及貯炭ノ狀況左ノ如シ。

九四

昭 和 十 五 年 十 月	出 炭	賣 炭	貯 炭
十一月	四〇、七九四	三七、一七九	一〇九、七三一
十二月	四一、〇一一	三六、六三八	一一一、九七〇
昭和十六年一月	四六、七〇四	五七、二二四	九八、四九一
二月	三八、六一七	六一、〇八五	七二、五五九
三月	三七、二四七	六七、四五二	三八、三四七
昭和十五年乙年度	五三、七五二	五〇、五三五	三九、〇七三
昭和十六年四月	二五八、一二七	三一〇、一〇六	三九、〇七三
五月	五一、六〇三	三一、九五二	四〇、八八一
六月	五七、三四六	三三、六三七	六〇、四一五
	六二、〇一七	四七、〇二九	六九、三六四

(單位瓩)

七 月	八 月	九 月	昭 和 十 六 年 十 月	昭 和 十 七 年 一 月	二 月	三 月	昭 和 十 六 年 度 下 期
五八、五八五	五〇、九七七	六四、三七〇	三四四、九〇一	六三、四二五	七〇、二二一	七八、七六九	四二六、五八三
六〇、四五六	六七、四五六	八三、五四三	三二四、〇七二	五一、〇六七	四九、六八五	四五、五〇七	三五二、七二一
六二、九三一	四〇、七六〇	一一、七八三	一一、七八三	二一、五九九	三六、六二七	五九、八三三	五四、〇六二
						八四、九九四	
						八一、〇五六	
						五八、二八二	
						七八、五二七	
						四二六、五八三	

輸送關係ニ就テハ昭和十五年十一月一日待望ノ淮南鐵道ノ全通アリ、當公司ハ之ニ伴ヒ裕溪口港務所ヲ設
置シテ輸送業務ヲ取扱フコト、ナリ從來ノ淮河舟運ト併セテ當公司ノ輸送陣ハ大イニ強化セラル、ニ至レ
リ。然レドモ冬期ニ於ケル淮河ノ減水及軍用炭ノ引取遲延等ニヨリ貯炭ハ依然高ミ、淮南線ハ貨車不足ヲ
感ジタルモ略々所期ノ送炭ヲ實行シ得タリ。

九五

昭和十六年度上期淮南線	豫	定	實	績	差	引	不	足
計	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇				
淮南線	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一〇八、〇〇〇				
計	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇				
昭和十六年度下期淮南線	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇				
淮南線	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇				
計	六二、〇〇〇	六二、〇〇〇	六二、〇〇〇	六二、〇〇〇				
計	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇	二八、〇〇〇				

九六

(單位越)

裕溪口貯炭場施設工事ハ資材手當等ノ關係ヲ考慮シツ、引續キ施行中ナリ。
(一) 今後ノ方針
所期ノ出炭計畫ニ從ヒ分礦ノ完成ヲ俟テ九龍崗東西礦、大通礦ト共ニ全機能ヲ舉ゲ以テ年産一五〇萬
ヲ目指シ資材、勞力ノ確保輸送力ノ強化ヲ期セントス。

八、役員

- 董事長 盧 耀
- 副董事長 朱 定
- 專務董事 中村 伍七

- 董事 小村 千太郎
- 同 植村 癸巳男
- 同 吳 搏 九
- 監察人 阿 部 勇
- 同 孫 其 鏞

九七



華中蠶絲股份有限公司

九八

一、設立經過

事變ニヨリ休止セル製絲工場ヲ復興シ、農家ノ生産セル繭ノ處理ヲ圓滑ナラシメ、農家經濟ノ復興ニ資スルト共ニ、日支蠶絲業ノ調整ヲ計ランガ爲事變處理應急策トシテ昭和十三年四月取敢ヘズ日本蠶絲業關係者ニ依リ中支蠶絲組合（華名日華蠶絲公司）組織セラレ、支那側營業者ト共同シテ製絲工場ノ復活經營並ニ繭ノ買付ヲ實行セルガ、該組合ノ事業ヲ本格化シ、其ノ使命ノ遂行ニ遺憾ナカラシメンガ爲昭和十三年八月十日日本公司ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

本公司設立ノ當初ニ於テハ振興會社トノ連關ナカリシモ、事業運營上資本的聯繫ヲラシムルヲ適切ト認メラルルニ至リタル結果、振興會社ハ昭和十四年七月増資株一萬株ヲ引受クルト共ニ、舊株三萬株ノ肩替リヲナシ關係會社ニ加フルコトナレリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニヨル中國政府ノ普通法人タル株式會社
- (二) 本店所ノ在地 上海北京路二號

三、事業目的

- (一) 機械製絲事業ノ經營

- (二) 蠶種ノ製造及配給
- (三) 產繭ノ新規利用ニ關スル加工業
- (四) 必要ナル土絲ノ賣買
- (五) 前各號ニ附帶スル業務及之ニ對スル投資

四、政府ノ監督

- (一) 蠶絲業ニ關シ左ノ事業ヲ爲サントスルトキハ政府ノ免許ヲ要ス
 - (1) 蠶種製造業
 - (2) 機械製絲業
 - (3) 繭行業
- (二) 實業部長ハ蠶絲業統制上必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得
- (三) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
 - (イ) 定款中重要ナル事項ノ變更
 - (ロ) 社長及副社長ノ選任及解任
 - (ハ) 合併及解散ノ決議

五、公司ノ特典

政府ハ本公司ヲシテ中支那ニ於ケル機械製絲業蠶種製造業及繭行業ノ統合經營ヲ行ハシム

九九

支那側		日本側		株主	出資種類	株數	出資額	拂込額
崇裕絲廠	永盛絲廠	鼎昌絲廠	禾豐絲廠	江蘇農民銀行第二倉庫	振興絲廠	瑞豐絲廠	長野縣製絲業組合	長野縣製絲業組合
現物	現物	現物	現物	現物	現物	現物	現物	現金
二、四四七	三、〇五五	二、一六九	二、三八六	二、五〇一	三、〇一五	三、五二〇	三、八〇三	四、〇〇〇
一一、二二、三五〇	一一、五二、七五〇	一〇、〇八、四五〇	一一、一九、三〇〇	一二、二五、〇五〇	一五、〇七、五〇〇	一七、六〇、〇〇〇	一九、〇一、五〇〇	二一、〇〇、〇〇〇
一一、二二、三五〇	一一、五二、七五〇	一〇、〇八、四五〇	一一、一九、三〇〇	一二、二五、〇五〇	一五、〇七、五〇〇	一七、六〇、〇〇〇	一九、〇一、五〇〇	二一、〇〇、〇〇〇

合	支那側	日本側	株主	出資ノ種類	株数	出資額	%	拂込額	拂込
現金	現金	現金	現金	現金	現金	現金	現金	現金	現金
四、〇〇〇	五、〇〇〇	三、二七	三、二七	三、二七	三、二七	三、二七	三、二七	三、二七	三、二七
三、〇〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇
一〇〇・〇	二六・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五
三、五〇〇、〇〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇	二、八四、五〇〇
全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額	全額
一〇〇・〇	二六・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五	七・五

六、資本金
1. 資本金總額 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
2. 拂込額 六、五〇〇、〇〇〇圓
3. 株式數 二〇〇、〇〇〇株
4. 一株ノ額面 五〇圓
5. 出資狀況

6. 主ナル出資者

7. 資本ノ増減

イ、昭和十三年八月十日設立當時ノ資本左ノ如シ

資 本 金 八百萬圓(拂込金額五百五十萬圓)

現金出資 五百萬圓(半額拂込)

現物出資 三百萬圓(全額拂込)

ロ、昭和十四年七月二百萬圓ヲ増資シ

資 本 金 壹千萬圓(拂込金額六百五十萬圓)トナリ

其ノ増資額ノ内譯左ノ如シ

現金出資 百萬圓(半額拂込)

七. 事業狀況及今後ノ方針

(一) 事業狀況

本公司ハ昭和十五年度末以來、日支斯業調整ノ立場ヨリ輸出蠶絲生産ノ自主的制限ヲ行フコト、ナリ、本公司事業運営上重大ナル轉換ヲ餘儀ナクセラレタルヲ以テ、昭和十五年度期首ヨリ五〇%ニ操業ヲ短縮シ、昭和十六年一月乃至三月ニ於テハ殆ンド全工場休業狀態ニ近カリシモ昭和十六年度上期首以來再び本格的操業ニ入りタリ。然ルニ昭和十六年七月末資産凍結ノ實施ニヨリ、第三國就中米國市場ニ對スル希望ヲ全面的ニ抛棄スルノ已ムナキニ至リ本公司ノ事業ハ第一轉換ニ當面スルコト、ナレリ。即チ昭和十六

年度上期ハ輸出制限強化ト之ニヨリ生ズル餘剩蠶絲ヲ内需ニ仕向ケントスル輸出、内需ニ面策ヲ以テ出發シタルモ、資産凍結實施以後ハ生産ヲ極力制限スルト共ニ東亞共榮圈内衣料資源確保ノ愈々重大ナルニ鑑ミ、羊毛代用品タル短纖維ノ原料ヲシムル爲生絲及乾繭ノ日本向輸出ヲ圖リ、更ニ共榮圈内ニ於ケル蠶絲及絹織物ノ需要ニ應ズベク絹織、絹メリヤス工場ノ新設並ニ短纖維及セリシン定着纖維操作ニ付與學計畫中ニシテ一部ハ既ニ操業ヲ開始セリ。而シテ本公司ノ基礎タル蠶絲業ノ縮少並ニ事業内容ノ轉換ニ即應シテ昭和十七年三月公司機構ノ改革及人員ノ整理ヲ斷行シ最少限度ノ員數ヲ以テ最大能率ヲ擧ゲンコトヲ期セリ。

(1) 製絲工場

生産制限ノ必要上昭和十五年度ハ半操業ヲ以テ開始シ、昭和十六年一月乃至三月ハ殆ンド全工場休止狀態ニアリタリ。四月期首ヨリ十八工場約六千釜ノ運轉ヲ開始セルモ、七月末資産凍結ノ實施ニ伴ヒ應急措置トシテ取敢ヘズ全工場ヲ停止シテ事態ノ推移ヲ靜觀セリ。其ノ後九月二十日ニ至リ一部ノ操業ヲ再開シ、昭和十六年度上期末現在十二工場、三、三二八釜ヲ操業セリ。同下期越年後ハ全工場ヲ停止シ専ラ短纖維セリシン定着纖維工場ニ重點ヲ置ケリ。三月ニ至リ製絲工場ノ一部ヲ操業シ下期末現在稼働二工場、五七六釜ナリ即チ次ノ如シ。

所 在 地	工 場 名	操 業 釜 數	休 業 釜 數	備 考
無錫	振興	1	二五六	休業

101

101

所 在 地	工 場 名	運 轉 機 械	摘 要	昭和十六年度上期合計				昭和十六年度下期合計			
				八 月	九 月	十 月	十一 月	十二月	一月	二月	三月
上 海	華中蠶絲絹布工場	七〇台	織機設備二〇〇台	一、八三二	四五、九五五	八、四一八	七、二三九	四、二二六	八、九	一、一七五	二一、一四七
同	華中蠶絲絹紡工場	六組	織機設備二〇〇台								
同	華中蠶絲裕泰絲廠	七〇釜	線繭短纖維製造								

(2) 加工工場

(3) 原料仕入

昭和十五乙年度ハ其ノ期ニ當ラザル爲繭ノ仕入ナシ。昭和十六年度ノ春繭仕入ハ比較的順調ニ進捗シ豫定數量七萬擔ニ對シ六萬六千餘擔ヲ取得セルモ、秋繭ニ付テハ天候ノ不順、非占領地區ヘノ流出等ノ事情モアリ五千擔購入計畫ニ對シテ二分ノ一弱ニ過ギズ。

春繭(乾)

六六、一八八擔

秋繭(乾)

二、三〇〇擔

繭價ハ昭和十五年度中國政府繭價評議員會ニ依リ次ノ如ク決定セラレタリ。

春繭(單位鮮繭司馬秤)

一、改良種

線折

三八〇斤

一一二〇元

同

四二〇斤

一八〇元

同

四五〇斤

一五〇元

註、標準以上ノモノ及標準以下ノモノニ付テハ右ニ準ズ

一、土種

改良種ノ七掛トス

秋繭(單位鮮繭司馬秤)

107

線折		四〇〇斤	一六三元
同		四二〇斤	一五五元
同		四五〇斤	一四五元

註、標準以上ノモノ及標準以下ノモノニ付テハ右ニ準ズ

(4) 蠶種ノ製造及配給

昭和十六年度ニ於ケル直營及委託ニ依ル蠶種取扱数量左ノ如シ尙昭和十五乙年度ハナシ。

一、蠶種製造数量(上期下期同ジ)

期別	普通種	蠶種	毛種	計	摘	要
春期	一〇九、五二〇箱	三八、四八〇箱	一四八、〇〇〇箱	一箱卵量一〇瓦入トス		
秋期	三三、〇〇〇		三三、〇〇〇	同		
計	一四二、五二〇	三八、四八〇	一八一、〇〇〇	一、八一〇、〇〇〇枚		

二、蠶種配給数量(上期下期合計)

期別	直營種	江蘇種	浙江種	輸入種	複製種	計	摘	要
春期	一〇、四八枚	一五、一〇枚	三九、四七枚	五〇〇枚	四二、五五枚	五〇、九六枚	浙江直營種	製ノモノ
秋期							浙江直營種	製ノモノ

一〇八

(1) 今後ノ方針

日本蠶絲業トノ緊密ナル聯繫ノ下ニ、外國市場依存態勢ヨリ内需促進ヘノ根本的轉換ヲナスベキ緊急要請ニ即應シ、繭及生絲ノ纖維資源ヲ確保シ以テ東亞共榮圈ニ於ケル需要ヲ充足セントス。

八、役員

常務取締役	鈴木格三郎
同	小林 衛
同	王 紹 鈞
取締役	池 上 照
同	季 伯 勤
同	波多野林一
監査役	油谷恭一

註 收購量ハ春蠶種期ニ於テハ蠶種一枚當リ二〇斤(乾繭六斤)程度秋蠶種期ニ於テハ國作ノ爲生繭二二斤(乾繭四斤)程度ノ收購ヲ見タリ。

秋期	計	秋期	計
一四、五五	一四、五五	一四、五五	一四、五五
一三、七五	一三、七五	一三、七五	一三、七五
一三、一五	一三、一五	一三、一五	一三、一五
五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
二九、二四	二九、二四	二九、二四	二九、二四
七五、五五	七五、五五	七五、五五	七五、五五
一四、五五	一四、五五	一四、五五	一四、五五
輸入種	輸入種	輸入種	輸入種
入ノモノ	入ノモノ	入ノモノ	入ノモノ
現地ヨリ買	現地ヨリ買	現地ヨリ買	現地ヨリ買
上ノモノ	上ノモノ	上ノモノ	上ノモノ

一〇九

同 顧 同
問
沈 聯 芳
今 井 五 介
黃 士 龍

110

華中水產股份有限公司

一、設立經過

中支那沿岸漁獲物ノ集散地タル上海水產市場ハ、事變後、支那漁船ノ上海入港禁止、本邦漁業者ノ亂出等ニ伴ヒ異常ノ混亂ニ陥リタルヲ以テ、關係當局協議ノ結果取り敢ヘズ日本水產株式會社、株式會社林業商店及長崎縣漁業組合ノ三者ヨリ成ル組合ヲシテ生魚搬入ヲナサシメタリ。
然ルニ其ノ後、支那側沿岸漁船ニシテ第三國旗ヲ掲揚シ、皇軍ノ交通禁止ヲ犯シテ佛租界ニ搬入シテ取引スルモノ炮マズ、茲ニ之等ヲ我方勢力内ノ地域ニ誘引スルノ必要ヲ痛感シ、現地軍當局ノ支援ノ下ニ楊樹浦上海工部局公共荷揚敷地ノ一部ヲ借入レ、假魚市場ヲ建設シ、次デ之ヲ本格的經營ニ移スト共ニ、水產事業ノ統制經營ニ當ルベキ本公司ノ設立ヲ計畫シ、昭和十三年十一月六日之ガ創立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法人格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ普通法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海麥克利克路三五號

三、事業目的

- (一) 生魚卸賣市場ノ經營並ニ水產物ノ賣買
- (二) 中支那沿岸ヲ根據地ト爲ス汽船トロール漁業並ニ機船底曳網漁業

111

四、政府ノ監督
(一) 製氷冷蔵、冷凍漁獲物ノ運搬其ノ他前各號ニ附帯スル事業
(二) 政府ハ本公司ニ對シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
(三) 左ノ事項ニ關シテハ政府ノ認可ヲ要ス
(1) 定款中重要ナル事項ノ變更
(2) 合併及解散ノ決議
(3) 社長及副社長ノ選任及解任

五、公司ノ特典

- (一) 政府ハ本公司ヲシテ上海ニ於ケル生魚類ノ卸賣市場ヲ統制經營セシムルト共ニ、必要ナル範圍ニ於テ其ノ他ノ水産物ノ卸賣市場ヲ統制經營セシメ、本公司以外ニ同種事業ノ經營ヲ認めズ
- (二) 政府ハ南京其ノ他主要都市ニ於ケル前條ノ業務ニ付本公司ヲシテ優先的ニ經營セシム
- (三) 政府ハ本公司ヲシテ中支那沿岸ヲ根據トスルトロール漁業並ニ機船底曳網漁業ヲ統制經營セシメ、本公司以外ニ同種事業ノ經營ヲ認めズ

六、資本金

- 1. 資本金總額 五、〇〇〇、〇〇〇圓
- 2. 拂込額 三、一六五、〇〇〇圓

3. 株式數

一〇〇、〇〇〇株

4. 一株ノ額面

五〇圓

5. 出資狀況

株主種類	株數	出資額	%	拂込額	拂込%
日本側	現物 六九、四〇〇 現金 二一、〇〇〇	三、四七〇、〇〇〇 一、〇五〇、〇〇〇	九〇・四	一、七三五、〇〇〇 一、〇五〇、〇〇〇	八八・〇
支那側	現物 四、〇〇〇 現金 五、六〇〇	二二〇、〇〇〇 二八〇、〇〇〇	九・六	一〇〇、〇〇〇 二八〇、〇〇〇	一一・〇
合計	現物 七三、四〇〇 現金 二六、六〇〇	三、六七〇、〇〇〇 一、三三〇、〇〇〇	一〇〇・〇	二、八三五、〇〇〇 一、三三〇、〇〇〇	一〇〇・〇

6. 主ナル出資者

株主	出資額	拂込額
日本側	中支那振興株式會社 現金 五五、四〇〇 保證責任全國漁業組合聯合會 同 五〇、〇〇〇	二、七七〇、〇〇〇 二、三八五、〇〇〇

イ、魚市場

(A) 上海魚市場

各地湖沼産及養殖ノ淡水魚、舟山島方面ノ海魚並ニコレ等ノ鹽干魚ノ入荷ハ漸増ノ傾向ニアルモ

昭和十六年度下期ハ季節的關係ニヨリ上期ニ比シ數量ニ於テ二割八分減、金額ニ於テ一割減ヲ示セリ。各期取扱高ハ昭和十五乙年度一千六百六十三萬餘圓、昭和十六年度上期二千二百餘萬圓、同下期二千二百七萬餘圓ナリ。各期ニ於ケル當市場ノ類別取扱高左ノ如シ。

（單位元）

(單位元)

年	月	海	魚	河	魚	鹽	干	魚	合	計
昭和十五年	十一月		一、三〇、四三	二、六五、五九		一、八七、四六				五、七三、五三
	十二月		三、七六、八四	三、三〇、〇九		一、〇三、三三				七、九六、五五
昭和十六年	一月		二、四三、三三	三、四六、五四		七、六六、三四				六、五九、一三
	二月		九、四三、三六	一、六八、八五		五、七〇、二九				三、〇三、七〇
	三月		三、〇九、六六	一、四四、〇六		一、三五、二六				五、七三、五九
昭和十五年度合計			二、一六、九三	二、六二、六三		六、〇九、九四				二、六七、七五
昭和十六年	四月		五、七〇、四九	一、〇五、二一		七、四一、七八				七、九六、八六
	五月		七、九六、六二	一、七六、三三		二、五三、四七				二、〇八、一三
	六月		五、三五、三六	一、七三、五八		四、〇六、二七				二、一三、四九
	七月		一、六六、八五	一、四〇、三三		三、四八、二四				六、二六、七七
	八月		九、四三、六七	一、四七、八九		三、三五、三四				五、六六、〇六
	九月		一、四三、三五	二、四四、三二		四、九八、〇九				八、二六、九九

[illegible]

昭和十六年度上期合計	二、八六、八八六	九、七七、六二二	一、七、六六、四四五	五〇、八三、五〇四
昭和十六年	二、二七、三三五	六、〇四六、八三三	六、五五、七五〇	一四、七九、八八六
十月	三、四九、〇三三	六、九八、〇九二	四、六五、〇三六	一五、〇六、三三〇
十一月	九、七五、〇四〇	四、五五、三六二	三、六六、三九九	一七、六〇、五四一
十二月	四、八三、六八六	五、九八、〇五二	一、三二、二九一	二、七三、八六六
昭和十七年	二、四九、七三三	五、五五、六四〇	九、七三、一九四	九、〇〇、五六一
一月	三、四六、五五四	三、九八、八四七	四、八七、六五五	二、三七、〇〇〇
二月	二、六、三三一	三、五二、八四四	三、四一、〇七七	九、六六、二二二
昭和十六年度下期合計				

(B) 南京魚市場

上海ニ比スレバ一般ニ需要不振ナルモ、季節的ニ昭和十五年度及昭和十六年度下期ノ河魚ノ出廻リ稍良好ナルモノアリ。取扱高ハ昭和十五年度五十五萬餘圓、昭和十六年度上期四十八萬餘圓及同下期三十九萬一千餘圓ナリ。詳細左ノ如シ。

(單位圓)

年	月	海	魚	河	魚	鹽	干	魚	合	計
昭和十五年	十一月		二、二一〇	六〇、四八八		一六、三五二		七九、〇五〇		
	上月		四、九九二	八八、九〇九		二六、一五八		一一〇、〇五九		
昭和十六年	一月		七、一九二	一六〇、一五二		一一、四五六		一七八、八〇〇		

昭和十五年乙年度合計	二月	二、一七四	七五、四一〇	二六、七九〇	九九、三七四
昭和十六年	三月	二、八四五	三三、八九二	二六、四〇〇	七三、一三七
	四月	二九、四一三	四一八、八五一	二〇一、一五六	五五〇、四二〇
	五月	一八、九四四	三七、九九六	一四、四一〇	七一、三五〇
	六月	二六、〇九三	七増、〇九八	一九、二七二	一一四、四六三
昭和十六年度上期合計	七月	七、九三八	三九、七七三	五六、六七五	一〇四、三八六
	八月	二、七三七	一六、一一九	四〇、四三〇	五四、二八六
	九月	四、二八七	一三、六二九	四六、九五〇	六三、八六六
	十月	一〇、六九八	一六、四八〇	四〇、二〇三	六二、三八一
昭和十六年度下期合計	十一月	七〇、六九七	一九二、〇九五	二二七、九四〇	四八〇、七三二
	十二月	三、一一一	四一、五五八	二一、九六〇	六六、六二九
	一月	四、〇二九	三五、五三五	一二、七三六	五二、三〇〇
	二月	二、六七三	六八、四九九	四、七三五	七五、九〇七
昭和十七年	三月	三、八八六	七九、〇八〇	六、二三四	八九、二〇〇
	四月	三、〇九六	五六、五一三	四、二〇三	六三、八二二
	五月	一三、四六七	一八、九三六	一一、七一〇	四四、一一三
	六月	三〇、二六二	三〇〇、一二一	六一、五七八	三九一、九六一

(C) 吳淞分場

一一八

吳淞分場ハ奥地向魚類ノ集産地ヲナシ、取扱品ハ總テ河魚ノ鹽干魚ニシテ主要魚ハ「キグチ」ナリ。
昭和十五年乙年度ハ建設中ニシテ取扱ナシ、昭和十六年度上期十七萬四千八百餘圓、同下期三千五百餘圓ヲ取扱ヒタリ。

(D) 無錫魚市場

無錫縣水産業ノ發達並ニ一般消費者ノ福祉増進ノ爲メ昭和十六年三月市場ヲ開設シタルガ、當分ノ
間中國合作社無錫支社ニ之ガ經營ヲ委嘱シ居レリ。取扱高ハ昭和十六年度上期百三萬八千餘圓、同
下期五十二萬六千五百餘圓ナリ。

H、直營漁業

當公司ノ漁業部門ハ、日滿支漁業政策ノ中支ニ於ケル統制實施機關トシテ重要使命ヲ有スルモノニシ
テ、主トシテ舟山島沖ヲ漁場トシテ活動セリ。昭和十七年三月末ニ於ケル所有漁船及運搬船ノ隻數及總
噸數左ノ如シ。

一、汽船トロール漁船	三隻	七八五噸九四
一、機船底曳網漁船	六隻	八五七噸七五
一、運搬船	八隻	四三七噸六一
一、雜漁業用漁船	二隻	六・噸・九

計

二九隻

二、一四三噸四九

外ニ補助漁船ニ隻アリ

近時漁業用物資入手難ニ加フルニ、燃料重油其他ノ續騰ニ因リ漁撈原價亦一段ト昂騰シタルモ、幸ニ底
曳網漁業ハ一般ニ順調ヲ示シ相當ノ成績ヲ舉ゲタリ。各期水揚高ノ噸數及金額次ノ如シ。(端數切捨)

昭和十五年乙年度	一四五千噸	一五四萬圓
昭和十六年度上期	一五二千噸	一四二萬圓
昭和十六年度下期	一五〇千噸	一三〇萬圓

ハ、冷凍業

水産經營上不可缺ノ重要事業タル製氷、冷凍及冷蔵事業ハ、昭和十六年五月上海第一、第二冷凍工場
(製氷能力六〇噸、冷蔵能力六〇〇噸)、南京冷凍工場(製氷能力一八噸、冷蔵能力二〇〇噸)ノ建設
及補修工事完成シ、五月上旬ヨリ一齊ニ操業ヲ開始シテ、直營漁業及民船用機氷ノ供給並ニ軍需、民需
水産食糧ノ凍結及供給業務ヲ行ヘリ。業況ハ何レモ順調ナルモ昭和十六年度下期ニ於ケル舊法幣ノ對軍
票價值激落ニ因リ凍魚先約取引ハ相當ノ打撃ヲ蒙レリ。

(I) 今後ノ方針

漁獲能率ノ向上ヲ計リ、一方既存魚市場ノ市場取引統制ノ強化ニヨリ適正ナル市場機構ヲ形成シ以テ軍ノ
糧食現地調辦方針ニ副フト共ニ愈々中支民食ノ豊富低廉ナル供給ヲ計ラントス。尙魚苗ノ對日供給ヲ企圖

一一九

八、役員

※ 兼務準備は著手し居レリ。

董事長	宋 定
副董事長	宋 定
常務董事	田口長治郎
同	内藤謹三郎
同	沈 能 毅
董 事	中部悦郎
同	何 士 章
監察人	張 則 民

華中鹽業股份有限公司

一、設立經過

中支那最大ノ鹽場タル淮北鹽田ノ事變以來數十萬担ニ達セル貯鹽ノ處理ヲ計リ、鹽民ノ生業ヲ安固ナラシムルコトハ、現地宜撫工作上急ヲ要シタルヲ以テ、取敢ヘズ昭和十四年五月中支那振興株式會社ヲ主體トスル現地調査隊ヲ派遣シ其ニ戰後ノ實態調査ヲ行ハシムルト共ニ同月下旬中支那振興會社内ニ臨時鹽業部ヲ設置シ之ガ搬出販賣事業ヲ實施セリ。次デ海州鹽ノ買付及國內配給、對日供給ヲ本業トスル本公司ノ設立ヲ促進シ、昭和十四年八月一日中支那振興會社臨時鹽業部ノ事業一切ヲ繼承シテ本公司ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及本店ノ所在地

- (一) 法 人 格 日支合辦ニ依ル中國政府ノ特殊法人タル株式會社
- (二) 本店ノ所在地 上海北四川路五二三號

三、事業目的

- (一) 鹽ノ賣買並ニ輸移出
- (二) 製鹽事業ニ對スル融資並ニ技術指導
- (三) 鹽ノ製造及精製
- (四) 前各號ニ附帶スル事業

☐ [View all](#)
☐ [View all](#)
☐ [View all](#)
☐ [View all](#)
☐ [View all](#)

株トナレリ。

(單位: 瓩)

三四

二五

昭和十六年度上期合	計	五五、六二六	二二、二四〇	七六、九六六
昭和十六年	十一月	一五、四六九	一、二〇七	一六、六七六
	十二月	一一、七九九	二、四八一	一五、二八〇
昭和十七年	一月	四、一九九	五、二五三	一九、四五二
	二月	六、一九五	八、六四六	一四、八四二
	三月	一〇、九三二	六、九〇〇	一七、八三二
昭和十六年度下期合	計	一五、七一八	一、六三〇	一七、三四八
	三月	七五、三〇二	三六、一一七	一一、四一九

一三六

昭和十六年春以來頓ニ治安ノ變化ヲ看タル海州附近ノ板浦、中正並ニ生産中樞地帯タル濟南ノ諸鹽場ハ同年六月上旬皇軍ノ大討伐ニヨリ治安確立シ現地軍ノ絶大ナル援助ノ下ニ生産指導並ニ買付確保ニ支障ナキヲ得タリ。

當公司ノ重大任務タル指導鹽田ノ築造ハ、三ヶ年計畫ヲ以テ四百五十町歩ヲ築造スベク鋭意努力ヲ續ケタルタメ一部操業可能ノ域ニ達シ、本年十月頃ニハ完成ノ見込ナリ。此レガ完成ノ曉ニハ年産約二萬七千噸ヲ生産シ得ルニ至ルベシ。

大浦精鹽工場ノ復舊補修亦順調ナル進捗ヲ續ケ、昭和十五年十一月二十八日操業ヲ開始シ年産一萬噸ヲ目標トシ目下日産二〇噸ノ生産能力ヲ具備セリ。尙之ガ關聯事業トシテ同工場内ニ苦汁工業施設ヲナシ之ヲ

基點トシテ漸次當該事業ヲ擴大スベク、既ニ準備の施設ヲ完了シ引續キ本設備ニ着手セリ。

△今後ノ方針

中支一億五千萬民衆ニ對シ、ソノ需要鹽ノ低廉圓滑ナル配給ヲ計ルト共ニ、日本工業鹽ノ有力ナル供給源ヲ確保スルコトヲ目標トシ、既設鹽田ノ復舊並ニ生産鹽ノ確保ニ努力シツ、アリ。昭和十五年度ヨリ向五ヶ年間ニ於ケル生産計畫ハ左ノ如ク、五年後ニ於テ、既設鹽田ノ復舊ハ事變前十箇年平均四十五萬噸程度ニ達スル豫定ナリ。

(單位噸)

	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	十九年度
華中鹽業公司新規鹽田	—	—	五、〇〇〇	一三、五〇〇	二七、〇〇〇
七公司其他鹽田	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇
合 計	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	三三五、〇〇〇	四一三、五〇〇	四七七、〇〇〇

板浦指導鹽田ハ繼續事業トシテ引續キ築造シ、合理的方法ニ依リ鹽ノ生産原價ヲ可及的低廉ナラシムルト共ニ、精鹽工場ノ擴充、苦汁利用等ノ加工事業ニモ進出スル方針ナリ。

尙日本内地工業鹽不足ニ對處シ増産計畫トシテ海州鹽ノ中樞タル濟南鹽場ノ七公司中ヨリ約千五百町歩ヲ選ビ之ニ製鹽器材ノ給與ヲナシ其ノ増産ヲ計ラントスル外、鹽田開發ノ爲近ク鹽田豫定地ノ測量ヲ開始スル豫定ナリ。

一三七

八、役員

董事長	李 閔 非
副董事長	北 西 位 佐 久
常務董事	桑 原 重 右 衛 門
同	羅 鑑 仁
董 事	森 田 市 松
同	楊 愷 華
監 察 人	茂 木 一 郎
同	謝 眉 生

二三八

振興住宅組合

一、設立經過

事變以來中支那特ニ上海ニ於テハ邦人來住者ノ漸増ニ伴ヒ住宅難益々激化シツ、アリ。振興會社及其ノ關係會社従業員ノ多クガ新規來住者ナル關係上、之等各社ヲ一丸トセル相互的組織ニ依リ所要住宅址ニ附屬施設ノ建設經營ニ當ラシムルヲ最モ合理的對策ト認メ、昭和十四年九月本組合ノ設立ヲ見ルニ至レリ。

二、法人格及事務所所在地

- (一) 法人 格 日本民法ニ依ル組合
- (二) 事務所ノ所在地 上海乍浦路二〇七號

三、事業目的

中支那ニ於ケル中支那振興株式會社及其ノ關係會社ノ社員ノ所要住宅址ニ之ニ必要ナル施設ヲ相互的合理的ニ建設經營スルコトヲ目的トス。

四、出資金

1. 出資金總額	三、〇〇〇、〇〇〇圓
2. 拂込額	三、〇〇〇、〇〇〇圓
3. 出資者	

二二九

五 事業状況及今後の方針

出資者	出資の種類	出資額	拂込額
中支那振興株式會社	現金	九五〇、〇〇〇圓	九五〇、〇〇〇圓
上海恒産股份有限公司	現金	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
華中鐵道股份有限公司	現金	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇
華中水電股份有限公司	現金	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
華中電氣通信股份有限公司	現金	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
華中蠶絲股份有限公司	現金	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
華中鑛業股份有限公司	現金	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
華中水産股份有限公司	現金	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
上海内河輪船股份有限公司	現金	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
華中市公共汽車股份有限公司	現金	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
大上海瓦斯股份有限公司	現金	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
淮南煤礦股份有限公司	現金	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
華中鹽業股份有限公司	現金	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
中華輪船股份有限公司	現金	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇

(一) 事業状況

本組合ハ上海新市街都市計畫區域内五條ヶ辻附近上海恒産股份有限公司ノ現物出資ニ係ル四萬坪ノ敷地ニ、住宅並ニ附屬施設ヲ建設スベク昭和十四年末工事ニ着手セリ。爾後資材入手難ノ爲メ工事ハ多少遅延シタルモ望原莊ハ昭和十五年十一月入居開始シ、明和街、平昌街及慶林街ノ各住宅ハ昭和十六年三月建築全工程ヲ竣工セリ。依ツテ昭和十六年度上期ヨリハ建物、道路其ノ他附屬施設ノ改善及經營ニ専念セリ。而シテ貸貸開始以來終始満員盛況ニシテ、振興會社並ニ關係會社々員ノ住宅難ヲ緩和シテ裨益スル所アリ。而シテ貸貸開始以來終始満員盛況ニシテ、振興會社並ニ關係會社々員ノ住宅難ヲ緩和シテ裨益スル所アリ。而シテ貸貸開始以來終始満員盛況ニシテ、振興會社並ニ關係會社々員ノ住宅難ヲ緩和シテ裨益スル所アリ。

住宅並ニ附屬施設左ノ如シ。

住宅並ニ附屬施設左ノ如シ。	戸數又ハ室數	賃貸料	備考
望原莊	三、一四三坪	四〇五室	二七圓
明和街住宅	一五坪	三四八戸	四〇圓
平昌街住宅	二六坪	二六八戸	七五圓
慶林街住宅	三八坪	三〇戸	一二五圓
慶林街住宅	四二坪	三〇戸	一四五圓

慶林街住宅ハ 四八坪 一八戸 二七五圓 同
 幼稚園 八五坪 一戸
 銭湯 八四坪 一戸
 自動車庫 五三坪 八戸 四〇圓
 (一) 今後ノ方針
 今後ハ當分新規建設ヲ行ハズ、専ラ經營ニ力ヲ注ギ、建設住宅ノ償却、振興會社ヨリノ借入金ノ返済ニ
 努メ、尙組合員ニ對シ年六分程度ノ利益分配ヲ行ハンコトヲ期セリ。

六、役 員
 理 事 長 矢 守 貞 吉
 理 事 山 本 拙 郎
 監 事 油 谷 恭 一

法幣需給調節基金

一、設立經過

中支那ニ於ケル複雑ナル通貨事情ニ鑑ミ振興會社ニ於テソノ關係會社ノ法幣資金ノ使用ヲ統制シ、ソノ需
 給ヲ調節スベク組合組織トシテ昭和十四年八月設立セラレタリ。正確ナル名稱ハ中支那振興會社及關係會
 社法幣資金需給調節基金ト稱ス。

二、法人格及事務所ノ所在地

- (一) 法 人 格 日本民法ニヨル組合
 (二) 事務所ノ所在地 上海乍浦路二〇七號中支那振興株式會社内

三、事業目的

組合員タル振興會社及關係會社相互間ノ法幣資金ノ需給調節ヲナシ以テ邦貨ノ安定ニ資セントス

四、出 資 金

1. 出資金總額 一一〇、〇〇〇圓
 2. 拂 込 額 一一〇、〇〇〇圓
 3. 出 資 者

出資者	出資額	拂込額
中支那振興株式會社	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中鑛業股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中水電股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
上海內河輪船股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中電氣通信股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
上海恒産股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中鐵道股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中水産股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中都市公共汽車股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中蠶絲股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
淮南煤礦股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
大上海瓦斯股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
華中鹽業股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓
中華輪船股份有限公司	一〇〇、〇〇〇圓	一〇〇、〇〇〇圓

五、事業狀況

昭和十六年度（自昭和十六年一月一日至昭和十六年十二月三十一日）ニ於ケル本基金ノ賣買總高ハ四一、五〇〇、〇〇〇元ニ達シタリ。基金ニ對シ最モ多ク法幣資金ヲ賣渡シタルモノハ華中電氣通信及華中蠶絲ニシテ中華輪船、華中水産之ニ次ギ、基金ヨリ最モ多ク法幣資金ヲ買入レタルモノハ華中鑛業ニシテ華中鐵道、華中公共汽車之ニ次グ。基金ノ運用順調ニシテ昭和十六年度ニ於テハ組合員ニ對シ六分ノ利益配當ヲナシタリ。尙昭和十七年三月ニ至リ當基金ハ法幣不安ノ激化ニ鑑ミ、法幣勘定ヲ新法幣勘定ニ振替ヘ法幣賣買ハ差當リ新法幣ニ限リ實行スルコト、ナシタリ。

六、役員

理事 長 油谷恭一
幹事 下田有文